

JS 研修

研修みずのわ

Vol. **51**

2018

JS 研修 45 周年 特別記念号



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents

1	巻頭言	畑田理事
2	ごあいさつ	細川所長
3	企画「研修生今昔」	
	SP 5年以内	福島県須賀川市 相樂秀博 H28管きょ設計Ⅱ(第4回)
	10年以上	熊本県玉名市 早上正臣 S58管きょI
	昭和50年以前	(元)京都府長岡京市 谷口 廣 S49管きょ(初) S54工事管理Ⅱ
7	研修生便り	
	H29	愛知県(公財)愛知水と緑の公社 鍵谷美和子 H28水質管理Ⅱ
	H28	岐阜県岐阜市 平光俊介 H29処理場設計Ⅱ
	H29	鹿児島県枕崎市 星崎綾乃 H29企業会計(第1)
10	講師の今昔	(元)埼玉県草加市 高橋壮爾 H02管きょⅡ
11	同窓会ニュース	
	「宮山福会」	山形県山形広域環境事務組合 阿部真二
	「山口みずのわ会」	山口県柳井市 田原 章
	「筑豊会」	福岡県直方市 村中修平
	「福岡みずのわ会」	福岡県福岡市 竹廣喜一郎
16	研修施設の昔・今・未来	細川所長
18	特別講義 パネルディスカッション	
	特別講義に寄せて	細川所長、宮城県七ヶ浜町寺澤町長、熊本県熊本市上下水道局 岩本首席審議員より大地震を経験してからの復興について、 広島県廿日市原田副市長より浸水対策について 七ヶ浜町寺澤町長 廿日市原田副市長 熊本市上下水道局岩本首席審議員
	特別講義を受講して	栃木県佐野市 根岸 稔 H29管きょ設計Ⅰ(第2回)
26	退任教官挨拶	中村芳男 佐々木健太郎
28	新任教官紹介	青木 実 石川 眞 早矢仕 高
30	研修センター職員紹介	
32	H30研修計画	
34	研修トリビア	細川所長
35	アンケート結果の要約	
36	研修センターの歩み	
巻末	編集後記	

巻頭言

働き方改革と技術の継承

日本下水道事業団

研修担当理事 畑田 正憲



テラン職員が大量に退職することに伴い、新たな時代に対応するため維持管理から下水道の運営・経営に関する知識の普及と熟練から若手技術者への下水道技術の継承が大きな問題になりました。

およそ10年前、いわゆる「2007年問題」を契機として、少子高齢化による人口減少が現実の問題と認識され、各企業では労働力の確保や技術や知識の継承に関する取組の強化が始まりました。最近では、政府により一億総活躍社会の実現、そのための働き方改革の推進が叫ばれ、各産業や各企業で大きく取り上げられるようになりました。

同じ頃、下水道分野では建設・整備の時代がピークを過ぎ、維持管理・運営の時代へと変遷するとともに、地方公共団体のべ

「2007年問題」とは、戦後のベビーブームに伴い1947年（昭和22年）生まれを中心としたいわゆる「団塊の世代」の退職者が最も多く発生するのが2007年であるとして、特に、金融機関などの企業の根幹業務をさせるメインフレームコンピュータの保守を団塊の世代が担っていたため、業務が滞るのではないかと強く懸念され、さらに「労働力の大幅な減少」「技術や知識の若手への継承不安」「退職金の支払いによる企業の負担増と貯蓄や購入などの行動」が社会・経済に大きな影響を与えると考えられていました。

結果的に、各企業などでは、定年延長や再雇用など60歳から65歳まで継続雇用制度の導入により2007年問題は深刻なものとはならなかったものの、この問題は2012年に先送りされることとなりました。2012年は、団塊の世代が65歳を迎え、労働市場から完全に引退する「2012年問題」として再び問題化し、政府ではこうした背景・経緯を踏まえ、「一億総活躍社会」を提唱し、昨年9月内閣官房に「働き方改革実現推進室」が設置されました。

働き方改革とは、まず労働市場に参加していない女性や高齢者などの就労を促進し働き手を増やすこと、次に出生率を上げて将来の働き手を増やすこと、そして労働生産性を上げることが主な内容とするとともに、課題となつている長時間労働や非正規と正職員の格差の是正などを目指すこととされています。

政府の提唱する働き方改革の中で、まず労働生産性について考えてみることにします。現在、約8,000万人とされている労働人数（生産年齢人口）は、およそ15年後に7,000万人、30年後には6,000万人に減少すると見込まれています。労働生産性は現在の経済活動を維持しようとする単純に15%、30%の向上が、さらに、労働生

産性を向上させることにより長時間労働の是正と言う課題の対策をも念頭に入れるとすれば、大雑把に言うところ10、20年後にはおよそ1.5倍程度に向上させる必要があるということになります。

一方で技術の継承とは何かを考えると、熟練技術者が保持していた業務上必要な基本知識、実務を通じた実施手順や要領など経験知、実践を積み重ねるなかで形成してきた人・知のネットワークなどだと考えられます。

ではなぜ技術の継承が必要なのか。経営者にとっては、業務を行う上でよりの確で迅速な対応の実現など質的及び効率的な改善を求めていると考えられ、突き詰めて行くと労働生産性を上げることが最終的な目的となつていると考えられます。

研修センターでは、下水道の基本知識に加えて「下水道ストックマネジメント支援制度」など最新知識に精通した講師の確保や分かりやすく解説するテキストの工夫、より実践的な模擬体験が可能な教材を導入することによる実務習得についても改良、さらには研修の機会を通じた人と人の繋がりを支援する取組を推進するなど、研修の質的改善を図り下水道技術の継承に一層の貢献を果たして行きたいと考えています。

次に、働き手を増やす政策について、女性の進出は下水道においても例外ではありません。ここ数年間で研修センター受講生の約1割を占めるほどになり、近い将来は2割ほどに増加すると想定しています。現在、研修施設の再構築の計画を策定し、老朽化した技術開発実験施設の撤去とその跡地に新たな厚生施設を兼ねた（仮）新寮棟を設置し、女性受講者の増加に対応した新たな寮室や浴室を確保するなど研修環境の改善に努めています。

最後に、研修センターに勤務する職員の平均年齢はおよそ57歳、まさに「2012年問題」と同様、熟練職員の退職による業務の継承について懸念しています。

この対応にはまず、働き方改革などの政策と下水道をとりまく時代背景の変遷、それらに伴う研修への期待の変化を捉えなおし、その上で、研修内容や施設の充実とそれを実現するための運営体制を構築する必要があります。

前の時代から受け継いだ技術や知識を育て、進化させ、次の時代に引き継ぐため、「ベテランと若手が一丸」となり活気ある運営体制を実現して行きたいと考えています。

じゅあいさつ

出会い・縁

日本下水道事業団

研修センター
所長 細川 顕仁

平素より日本下水道事業団（JWS）の実施する研修に対し、格別のご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。

いきなり私事で恐縮ですが、今年度末で私がこの世界に入つて丁度30年になります。この下水道人生30年の出発点がJWS研修と言っても過言ではありません。入社1年目に管きよIを受講したのですが、当時は寮室が2段ベッド×2の4人部屋で、3週間同部屋の方に仕事以外のことも含めて色々教えていただいたことを鮮明に憶えています。

す。以後現在に至るまで全国の数多くの方と巡り会いました。その時だけのお付き合いの方仕事を離れても継続的にお付き合いさせていただいている方、疎遠になっていたのに何かのきっかけで復活した方等々、出会った後の関係は様々ですが、これら全ての方々から色々な影響を受けて現在の私が形成されていると思っています。

昨年4月にここ研修センターへ配属となって、「出会い・縁」について強く意識するようになりました。「ここは、コース・専攻それぞれに関する知識・情報の習得の場ではありますが、それに加えて、普段滅多に出会うことの無い方々と巡り会い、そして将来にわたるネットワークを構築するチャンスの中にもあります。昼間も大事ですが、夜の時間も有効に活用していい関

係を築いて下さい。」これは私が研修コースの開講式の挨拶の中で必ず申し上げているフレーズです。夜の時間も活用できる、これが宿泊型研修施設を有するJWS研修の最大の強み、魅力の一つだと考えております。

さて、昨年の「みずのわ」50号でも若干触れさせていただきましたが、平成28年12月に研修センター内施設の再構築中長期計画が策定され、今年度その基本設計に着手しました。この施設再構築の最大の目玉は、近年増加している女性研修生へ配慮した新たな寮室棟の建設です。この新築プロジェクトは「Dormitory for Ladies toward Cooperation and Evolution（協調と進化を目指した女子寮）＝DOLICE（ドルチェ）」と名付けられ、JWSプロパー女性職員が中心となって進められています。ドルチェの陰に隠れていますが、安心して下さい。もちろん男性用の寮室もリニューアルを予定しています。皆様馴染みの本館棟3階～6階の改造に加え、新たな寮室の設置も計画しております。ここでのポイントが、プライバシーの確保とJWS研修伝統の「濃い関係」構築の場の確保、両立です。プライバ

シー保持を優先させれば他の公的研修施設に多く見られるような完全個室化となるのですが、その場合研修生同士の関係が希薄になるのではとの懸念もあります。現在、JWS研修にとって最適な施設を目指して鋭意検討中で、来年の今頃にはその概要をご紹介できると思っていますので、どうぞご期待下さい。

企画「研修生今昔」

事業団研修から 人とのつながり

福島県須賀川市上下水道部

下水道施設課技査 相樂 秀博



はじめに

この度は「みずのわ」への掲載のお声をかけていただき大変有り難く感じております。

須賀川市について少し紹介させていただきます。須賀川市は福島県のほぼ中央に位置し、人口約7万7千人の地方都市です。7千株の牡丹が咲き誇る牡丹園は紅葉も必見で、花火師による尺玉の競演や音楽創作花火など1万発の花火が楽しめる夏

の風物詩釈迦堂川花火大会や、日本三大火祭りのひとつである松明あかしなどのイベントもあります。また、特撮の神様円谷英二監督の故郷で、M78星雲光の国と姉妹都市となり、市内にはウルトラマンヒーローのモニュメントが多数設置されフォトスポットとして子供たちに人気があります。

東日本大震災では、震度6強の揺れを体験し甚大な被害が生じ道路や上下水道などの生活関連施設に大変な影響を与えました。市庁舎も大きな被害を受け震災後は市の行政機能を4ヶ所に分散し業務を行っておりましたが、平成29年3月に新庁舎が完成し5月から新庁舎での業務を行っております。福島へお出かけの際には是非お立ち寄りく

ださい。ウルトラの父が皆さまをお待ちしております。

研修内容について

私は、平成28年に2度目の事業団研修となる「管きよ設計II」を受講しました。

研修2か月ほど前に福島県で開催した「宮山福会」にて、渡邊先生からの「相樂さん幹事長よろしく！」に「はい！」と勢いで返事をしてしまいました。考える間もなく、先輩達からは幹事長は大変としか言われず眠れない不安な日々が続きました。渡邊先生から事前に指名を受けた幹事の方々とミーティン



グを行いながらも、こりや大変な幹事長になってしまったと思いましたが、気さくな皆様の人柄に触れ、不安は一気に解消されました。

ディスカッションでは、班ごとに協力し合い、皆が持ち寄った難題を夜遅くまでいろんな視点から考え、解決策を見出し達成、さらに、他自治体の先進事



例も数多く聞くことができ大変視野が広がりました。

予備テストでは合格点まで程遠い状況。「皆さん本番の目標平均点は98点です。」という渡邊先生の一言で、改めて幹事長としてのプレッシャーを感じ、現場研修のバスの中、そしてベッドの上での暗記に励み、その結果満点を取った達成感は今でも覚えています。

夜の部では、全国各地から集まった研修生の方々と卓球や、毎晩談話室で夜中までお酒を飲みながらの楽しい交流や、渡邊先生からのお誘いで、たくさんの講師の方々と親睦を深めることができました。

この17日間にも及ぶ研修で得たものは多く、全国津々浦々、研修生の方々と触れ合うことができたこと、今回の出会いを通じて現在でもつながりを持っていることはとてもうれしく思います。また、いつかどこかでお会いできることを楽しみにしております。

渡邊先生をはじめ多くの講師の方々、そして仲間達にお世話になったことに大変感謝いたします。

研修から人とのつながり

毎年1月から3月にかけて、渡邊先生は恒例行事「渡邊行脚」があり全国各地を飛び回られています。そんな忙しい時期に時間を割いて来福の際には、郡山

市・須賀川市が合同で開催する「渡邊先生を囲む会」を行って

います。皆さん研修OBであり昔話や近況報告、宮山福会の話など楽しい時間を過ごしております。渡邊先生、今度は最後までお付き合いしますよ。

下水道事業団研修の思い出

熊本県玉名市産業経済部

部長 早上 正臣



着いた『お上りさん』でした。駅員に幾度も尋ねながら西川口駅へ、その後やっと笹目の研修所に到着したのを思い出します。今日ではスマホを片手に簡単に目的地へ到着できます。世の中の進歩は目覚ましいものです。

担当の先生は船橋助教授で、北は北海道から南は沖縄より個性豊かな研修生39名が集まりました。当時は研修結果が所属自治体へ報告されていたので、及第点を取れるよう勉強しました。

3週間の研修期間では勉強したことよりも、荒川の河川敷でソフトボールをしたこと、出身

地の話しや特産物、職場等のもやま話を肴に酒盛りをした和気あいあいの集団生活。休日は関東散歩で同部屋の金子さん(千葉県松戸市)の自宅に泊まり、廣さん(京都府長岡京市)と共に3人で開園したばかりの東京デイズニードへ遊びに行ったり、更に親戚のバイクを借りて湘南海岸・箱根・芦ノ湖へツーリングに行ったことが思い出されます。

また、この研修で渡邊先生と知り合うことが出来その後、玉名市へ出張で来られてからずっと親しくさせていただいております。

2回目は昭和63年に実施設計コース管きよII(第4回)で、担当の先生は石川教授で全国から集まった42名でした。

さすがに、管きよIIは管きよIに比べカリキュラムがハードであったために、以前にも増して勉強しました。

しかし、思い出はやはり研修生との交流と休日です。研修所で仲良くなった栃木県足利市の柳さんの案内で草津温泉や浅間山へ連れて行っていただいたこと、また野球を見に東京ドームへ行ったこと等を昨日のことのように思い出します。

渡邊先生に懇親会等と呼んでいたとき、先生の友人の方々とも知り合いになり、現在も交流を持たせていただいております。今更ながら先生の人脈の広さには感心させられます。

研修から約30年経過しますが現在も渡邊先生には大変お世話になり、可愛がっていただいております。

毎年3月に渡邊先生が熊本へ来られる時は、熊本市上下水道局の岡本さんに音頭をとっていただき、県内の下水道事業団研修に初めて参加した若者から、複数回研修に参加しているベテラン総勢20〜30人で『熊本会』を開催しています。研修所での思い出話や下水道に関すること、また家庭の近況等を語って親交を深めています。

さて、ここで玉名市において最近、特筆すべきことがあります。それは、2019年に放送されるNHK大河ドラマ、『いだてん〜東京オリムピック噺(ばなし)〜』で、玉名市出身の金栗四三氏が主人公の一人として決定したことです。四三氏は玉名市の名誉市民であり、日本人初のオリムピック選手で箱根駅伝の創始者でもあります。これを機に玉名市の魅力を全

国に発信し、多くの人々に知ってもらい地域の活性化に繋がって行きたいと思っております。

イチゴ・ミニトマト・みかん等おいしい農産物や有明海の海の幸も豊富ですし、夏目漱石ゆかりの草枕温泉、千三百年の歴史を誇る玉名温泉も楽しんでいただけると思いますので是非とも玉名へおいでください。

最後に、日本下水道事業団の益々のご発展と研修生皆様方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

寺小屋時代と 城崎水サミット

(元) 長岡京市総務部

管財課長 谷口 廣

はじめに

私が日本下水道事業団に研修生として最初にお世話になったのは、市役所入所後2年目の昭和49年、下水道事業センターと呼んでいた頃の「管渠初級コース」を受講。何も分からない私



に、研修指導課長をなされていた今は亡き西田哲夫様、担当先生だった菊池正直様から、技術もさることながら下水道とは何たるかを教えられ、熱い気持ちを持つて職場へ戻っていった当時のことを思い起こします。また、生活面においては、プレハブ造りの建物ではありましたが、受講後のひと時を畳の娯楽室で先生方と研修仲間を交えてマージャンをするなど、家庭の温かみを感じられる楽しい研修生活を送ることができました。

二回目の受講は、すでに日本下水道事業団の名称に変えられた昭和54年、建物も近代的なコンクリート造りへと変貌し、都会的な研修生活のもと「工事監督管理コース」を受講しております。

この二回の研修で得た知識から、下水道事業に十年間携わってきた私は、少なからずとも本

市の下水道普及に貢献できたものと自負していますが、私が何よりもかけがえのない財産を得たものは、退職後の今も研修生活の中から生まれたすばらしき友人との「水サミット」開催を通して親交を続けていることであり、その方たちとの交流の一

コマを全国の皆さんにお伝えしたいと思ひ立ちました。

水サミットの経緯

水サミットは、遠く離れている友人の地近くに寄り集まり、楽しく過ごす機会として一



城崎水サミット2017/平成29年5月17日(水)～20日(土)
京都市新宮川町お茶屋「小澤」にて

年に一回開催しています。研修センターの渡邊先生ほか教壇に立つておられた先生や今も現役で講師をされている先生、私のような過去の研修生がともに仲間（写真に写る方たち）として



城崎水サミット2017/平成29年5月17日(水)～20日(土)
兵庫県豊岡市「西村屋本館」にて

素晴らしい地を訪ね歩き、その土地の美食を味わう旅は、私にとって楽しみの一つになっています。

第一回の開催は栃木県佐野市赤見温泉にて産声を上げ、渡邊先生との御縁もあり参加してその感触の良さに引かれ、第二回の開催地に手を挙げておりました。

それで、平成25年7月京都の伏見の地を私が案内。豊臣秀吉が栄華を誇っていた名残を残す伏見城周辺の武家屋敷跡の散策

や全国から船積みされた献上品等が、淀川を上りこの地伏見港に荷上げられたとされる運河を三十石船で遊覧。

また、酒どころで知られる伏見の酒蔵も見学しております。

三回目以降の開催を語ると長くなるので省略しますが、栃木県鬼怒川温泉、広島県宮島・呉の軍港を舞台に行っておりません。なお、今回紹介します舞台の一角は、兵庫県豊岡市城崎温泉でのものです。

城崎水サミットでの思い出

第四回水サミットの地「城崎温泉」は、京都から車で走ること約3時間、兵庫県豊岡市城崎町を流れる円山川支流の大名谿(たに)川兩岸に建ち並んだ細長く延びる温泉街。古くは平安時代から千三百年の歴史を持ち、今なお木造建物にこだわったまち並みは、訪れる人に一昔前の時代を感じさせています。この地を訪れた志賀直哉、島崎藤村、与謝野晶子といった文豪も今なお宿泊しているような錯覚にとらわれるのも、この温泉地の魅力です。

私たち一行が二泊三日の行程

で宿泊した旅館は、城崎温泉の中でも最も老舗旅館として名高い「西村屋」。

夕方旅館に到着し、まず目の当たりにした玄関は重厚に満ちた老舗旅館の格式を漂わせるもので、部屋に通されると今度はいきなり目に入ってきたのが手入れされた大きな庭園。またもやその美しさに一同が感服。私たちは、一息つく間もなくさっそうと名物の七つの外湯へと出かける。街中は外湯巡りをする浴衣姿の旅行者で賑わっている。あちらこちらで下駄を鳴らすカランコロン、カランコロンと心地よい音色が響いている。

私たちも二か所の外湯をめぐり、ゆでだこ状態でふらふらと土産もん店を覗き見たり、酒場を探し求めたりしながら旅館にたどり着く。部屋にはすでに料理が並べられており、早速海の幸と但馬牛などの料理を舌鼓。地酒と持ち込みの美味しい酒で会話も大盛り上がりでした。おかげで楽しみにしていた温泉街での二次会も行けずじまいで、その日は夢の中へ。

翌朝、昨晚のお酒が残る中、車を走らせコウノトリ郷公園、鳥取砂丘、夢千代日記の舞台となった湯原温泉を見学し、予定

どおりに旅館に戻る。この夜も昨夜と同じ宴会で大盛り上がり。

そして三日目の朝、お土産を車に積み込み旅館の見送りを受けて、一路帰路に向かう。途中、出石町でそばを食し、無事京都に到着し解散ということに。

今回は「リベンジ 水サミット in 熊本」が具体的に企画調整されており、次号にてご報告できると思いますので、楽しみにしておいてください。

結び

かつて、山形市上下水道部長の山本さんが「地方分権の流れの中で、草の根的な人間関係を中心にした交流は、ますます大切になってきたおり、事業団研修は知識の習得と共に、全国の交流の場でもあり、今後ますます重要になってくると思われれます。」と記しておりましたが、まさにそのことを実感させられている今日です。

最後になりますが、研修センターの益々の発展と皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

研修生便り

水質管理Ⅱを受講して

公益財団法人 愛知水と緑の公社
五条川左岸・新川東部・新川西部事業所

鍵谷 美和子



私は平成28年度の「水質管理Ⅱ」を受講しました。初日のオリエンテーションでは、研修受講時間外に事前討論、資料作成が必要であることが説明され、ハードなスケジュールであることが予想されました。「水質管理Ⅱ」受講者は16名おり、女性を私を含め3名でした。宿泊部屋は女性3名同室ですぐに打ち解けることができました。5日間のなかで、座学に始まりグループディスカッション、実際に顕微鏡を用いて微生物の観察

や千葉県船橋市の下水処理場の施設見学をしました。

研修を受けて衝撃を受けたのは研修生の年齢幅が広いことと、全国各地から研修生が参加していることです。誰がどうみてもベテラン、もしくは講師のような貫禄のある方々が研修生として参加されていました。初めは話についていけないか不安でしたが、連日の宴会により気さくに話ができるようになりました。また、グループディスカッションとして、各自の現場のトラブル事例を挙げて話し合いをするので、同じやり方でも処理場ごとに合う、合わないがあるということを学びました。処理場又は地域によってどこを重要視するか、またはどこにお金をかけるかのポイントも異なることが分かりました。

また、「水質管理Ⅱ」では栗田先生の講義がとても印象深かったです。当たり前と思っていた事が本当にそうなのか、理論的にひも解いていきました。言われてみれば教科書通りでは矛盾していることがあり、指針等に示されている計算式をそのまま使用することが本当に適切な管理となるのか、疑問に思うようになりました。「何でも鵜呑みにせずに疑ってかかれ!」という栗田先生のお話は大変興味を惹かれるものばかりでした。

この研修を通じて、目の前で起きる現象やトラブルに対するものの考え方、見方について改めて考えさせられました。「現象が起きている場所に罪はない」という言葉が心に響きました。何か水質でトラブルが起きるとそこに人が集まりがちですが、本当の原因は別のところにあるかもしれない、そういう考え方もつことが重要だと学びました。昔からの流れで今も同じように管理している、これは危険な考え方であることも学びました。下水処理では教科書通りにうまくいくことのほうが少なく、前と同じ対処をしたからといって必ずしも同じように良

くなるとは限りません。何でも引っかかることがあれば自分で調べて実験、実証することが重要です。何を根拠に、何を基準に、何を管理していくか、ものの方、捉え方、考え方、これらは自分自身でしっかりと見極めていく必要がありますし、それを確立させていくことが下水

処理場の管理者としての責任でもあると感じました。

この5日間は大変濃いものとなり、時間が足りない程でした。研修生同士も絆が深まり、良き相談仲間ができました。これからもこの研修を糧に、日々の業務に励みたいと思います。



処理場設計Ⅱ研修を終えて

岐阜市上下水道事業部 施設課 電気設備係

主任技師 平光 俊介



まず何よりも始めに、コース担当である早矢仕先生、研修中に起きた様々な出来事により多大なるご心労をおかけしました事を、研修生を代表してここで深くお詫びすると共に、そんな私たちを最後まで暖かく見守っていただきありがとうございます。

事前に諸先輩方より情報収集したところ、下水道事業団研修とは、各地方から来る多くの方々とかかなり深く双方向コミュニケーションをするというお話を、人と接することが苦手な私は大きな不安を抱えて研修へと臨みました。しかし実際に研修が始まって

みると、休憩中や食事中、講義後の部屋や談話室で互いの地元の話や仕事の話、趣味などについて語っている内にだんだん緊張もほぐれていき、とても楽しく過ごすことが出来ました。特に最終日前日の談話室はとても盛り上がりましたが、それと同時に祭りが終わる時の様な寂しさも覚えました。

講義の内容は関連法規、水処理、設計指針、汚泥処理、水理、土木・建築・機械・電気的设计、改築についてと、盛りだくさんでした。維持管理に従事していたため、水処理や汚泥処理については既知の部分もありましたが、最新の技術について知ることができ、復習にもなったため非常に有意義でした。また、普段はあまり関わる事のない専門外の設計についての講義は大変興味深く、視野が広がったため、今後の業務に活きていくと思います。施設研修では、2箇所の処理

場にお邪魔しました。見学の道中では電気職らしく場内に張り巡らせてある電線管を見ながら、選定すべき管の種類について同じ電気職の方とあれやこれやと議論を交わしました。たまたま、台風による被害の復旧中という貴重なタイミングで見学が実施され、岐阜市でも起きうることであるため、気が引き締まりました。

デイスカッションでは、パソコンが配布された初日から動いている班などもあり、最終日の発表が近づくにつれ講義室、自習室、O A室で議論する研修生が増え、班の垣根を越えたコミュニケーションなどもあり、発表内容もかなり充実したものとなっていました。

個人的な思い出としては、本館と実習棟を結ぶ渡り廊下から見える彩湖の水門がとても綺麗で、何故か早くに目が覚めてしまった最終日に袂まで行ってその大きさに圧倒されたことが思い出されます。

最後になりましたが、快く研修へ送り出してくださいだき研修中の業務をフォローしてくださいだき同僚の皆様、本研修にてお世話になりました講師の皆様、美味しい料理を出していただいた

食堂の皆様、荷物の受発送でお世話になった下水道事業支援センターの皆様、飄々とした口調で談話室の会話を廻していただいた幹事T様、深すぎる趣味で皆を震撼させた副幹事K様、少ない予算から還付金を出した奇跡の会計M様S様、全ての資料を網羅する完璧なDVDを作成

した記録係I様S様、同室でお世話になったN様I様K様に感謝するとともに、H29年度処理場設計Ⅱコースを受講した皆様と日本下水道事業団研修センター様の益々のご活躍を祈念しまして本稿を締めさせていただきます。

「企業会計ー移行の準備と手続きー」を受講して

枕崎市 下水道課管理係

星崎 綾乃



お声に身の引き締まる思いですが、内容がこちらの原稿のお話だとわかり、更に緊張しました。お目汚しですが、「企業会計ー移行の準備と手続きー」を受講した際のことを書かせていただきます。

この度は、「みずのわ」への執筆にお声かけいただき、誠にありがとうございます。5月の研修から約半年経った先日、加藤先生からお電話をいただきました。エネルギーシユな先生の

枕崎市は鯉節の生産量日本一を誇り、まちのあちらこちらに鯉節の加工場があります。下水道事業を開始する以前は、これらの加工場からカツオなどを捌いた際に出る血水が河川へ流れ、河口付近の海は赤く汚れ



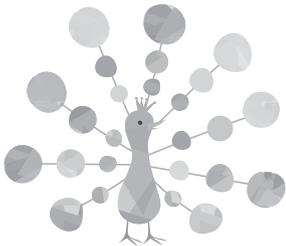
ていました。そこで昭和52年に
 公共下水道の管渠建設工事が始
 まり、昭和59年3月に供用を開
 始しました。今では多くの加工
 場に下水道接続へご協力いただ
 き、青い海を取り戻しています。
 当市下水道事業は、処理場の長
 寿命化・管更生の段階に移りつ
 つあり、今後も資本的支出が見
 込まれます。そのほか人口減少
 や節水型社会の浸透などによる
 有収水量の伸び悩みなどの問題
 を抱えています。そこで、今後
 も安定して公共下水道事業を継
 続していくために、平成32年4
 月を目標に地方公営企業法の全
 部適用に向けて取り組むことと
 なりました。

「企業会計」研修では、加藤

先生から全国の移行作業の状
 況、移行の手順と注意点等につ
 いての熱い講義があり、鳥取県
 米子市の金川主幹からも先行事
 例のお話がありました。また受
 講生も全国各地の自治体の方々
 が集まり、その規模や移行の進
 み具合も違い、情報交換できた
 ことも大変刺激になりました。
 近隣の自治体でみると移行の取
 り組み具合は標準的かなと思っ
 ていましたが、それでは遅いこ
 とや全国での事例など生の情報
 を教えていただき、大変焦った
 思いで初日に上司に電話連絡し
 たことを覚えています。5日間
 の充実した研修はあつという間
 に過ぎ、時間が足りないときえ
 思うほどでした。また、慣れな
 い寮生活でしたが、同じ講義を
 受講した女性4人と同室にな
 り、研修中はいつも一緒に行動
 させていただき本当にありがた
 かったです。講義が終わってか
 らも自室で優しいお姉さま方に
 その日わからなかったことなど
 教えていただき、とても助かり
 ました。夜の交流会も盛んで、
 全国からおもしろいものやお酒が
 集まり、それも覚えて帰らなく
 てはと撮った写真は今もちゃん
 と保存しています。朝から晩ま
 で大変勉強になる毎日でした。

今後も快適な生活環境と豊か
 な水域を維持しつつ、世界に誇
 る鯉節を作り続けられるまちで
 あるために、今回の研修で学ん
 だことを活かして、移行作業を頑
 張ろうと思っております。その
 間には困難なことが多く出てく
 ると思いますが、加藤先生と一
 緒に研修を受けた皆さんのこと
 を思い出して乗り越えようと思
 います。もしかしたら「平成29
 年度と一緒に企業会計の研修を
 受けた者ですが…」なんて電話
 を掛けさせてもらうかもしれま
 せん。その際はどうぞよろしく
 お願いいたします。

最後になりますが、同じ仕事
 をする方々と集まる機会もな
 く、最先端の学習をする機会も
 ない中、このような研修の場を
 設けていただき、加藤先生をは
 じめ、お世話になった皆様にと
 の場をお借りして感謝申し上げます。
 日本下水道事業団の発展
 と研修生皆様のご活躍をお祈り
 申し上げます。



講師の今昔

研修が紡ぎ・繋ぐ・みずのわ

(元) 草加市水道部

部長 高橋 壮爾



はじめに退職後4年目を経過した私に「みずのわ」第51号への投稿機会を与えて頂いた、渡邊良彦特任教授と青木実研修企画課長さんに感謝を申し上げます。

私事になりますが、私は定年を迎える2年前に大腸癌を発症し、3度の開腹手術後に定年退職を迎えました。そして、在職時代からの『愛を求める』煩惱を払拭するため、かねてからチャレンジしたかった四国八十八か所寺の遍路を徒歩で行い、無事結願を果しました。

しかしながら、煩惱がなくなるのは、歩いている時だけで、その後行った西国三十三か所寺の巡礼でも同様でした。

現在は青春18切符や割引切符を活用しながら、JR線の塗りつぶしの旅や有名居酒屋巡りを行っている時に、渡邊先生から投稿のお声がかかった次第です。

私が日本下水道事業団の研修に参加したのは平成2年「研修管きよ設計Ⅱ」コースを受講したのが研修生として最初で最後の研修でした。当時私が勤務していた埼玉県草加市は平成15年までに下水道普及率100%達成の目標と浸水対策に重点を置き、公共下水道汚水・雨水事業の事業費が年間100億円を超えていたことから、国庫補助事業の増加とともに、毎年会計検査の対象となることから、工事の設計・施工・監理に携わる技

術者の育成が急務でした。

そのため、下水道課関連職員以外の職員を積極的に日本下水道事業団に派遣しており、当時、私は河川課で公共下水道(雨水)を担当していたことから、研修に派遣されました。

当時、日本下水道事業団の研修は、昼と夜の研修にはメリハリがあると評判でしたので、期待と不安を抱き研修に参加したわけですが、日本各地から40数名の研修生が集い、研修が始まりました。

そして、研修メニューを日々こなして行くうちに、現場研修から研修所に戻った時だと思いましたが、研修生を一喝している声が聞こえ、我ながらずいぶん熱い先生がいるもんだなと思いつ線を見かけると、な何んと入所時にあいさつし、現在までお付き合いです。渡邊先生だったので。

その後、平成16年から下水道課に異動となり、下水道事業(汚水)に携わるようになると、草加市が流域下水道支部の事務局を担当した時には、研修講師の派遣で、また、20数年振りに草加市下水道使用料改定時には、渡邊先生を介して、研修センターの先生にご指導を仰いだり

と、様々な面で、渡邊先生にバックアップを頂きました。

渡邊先生は研修では研修生に厳しく臨み、プライベートでは西に相談ごとがあれば一緒に生ずれば一緒になってトラブル解消に当たる先生なんですね。

私は常日頃、渡邊先生は先生として、下水道事業団にとって稀有というか、唯一無二の存在だと思っています。

研修生との絆を今もつむぎ、つないでいるのが先生ではないでしょうか！

この縁が厳しい研修環境の中で、研修生獲得に大きく貢献しているのではないのでしょうか。

一研修生OBとして、心配なことは渡邊先生は永遠に不滅ではないということなんです。第2第3の渡邊先生を早期に育成し、先生の負担を軽減して頂くことを日本下水道事業団研修センターに願ってやみません。

また、そのご縁で、工事監督管理

コース・3専攻の講師を数年に亘り協力させていただきましたが、受講する側から、講義をする側に立って見て、講義資料等の準備をするにしても極度な緊張感と疲労感を体験いたしました。でも、今日振り返ってみると、良い体験であったと思いついておられます。どうか、皆様も積極的に講師を体験してみてください、いかがでしょうか。

最後に、「みずのわ」に関わる皆さまのご健勝並びにご多幸と日本下水道事業団研修センターの益々の発展を祈念しまして、終わりとさせていただきます。



同窓会ニユース

「宮山福（みやふく）会」の「わ」

山形広域環境事務組合施設課

課長補佐（兼）施設係長 阿部 真二

私からは、日本下水道事業団の研修つながりで活動している「宮山福（みやふく）会」の概要・近況について、紹介させていただきます。同会は、事業団研修センターの渡邊良彦先生が代表を務められており、現在私は、同会の山形側連絡係を仰せつかっております。

以前私、「研修 みずのわ」に、「宮山（みやま）会」と私のつながり、そして新たな「わ」というタイトルで寄稿させていただいたことがあるのですが、それから三年が経過しております。その間に、同会は、関東地方（ほか多数地域）、宮城県、山形県の会員からなる「宮山会」から、それに新たに福島県勢を加えた「宮山福会」と改名してきました。同会は、年に一度、十月の金曜日に正式な活動（温泉地での

夜の懇親）を行っております。開催地は、以前は概ね宮城・山形が一年交代（途中岩手開催もあり）でしたが、現在は宮城↓福島↓山形のローテーションとなっております。山形側連絡係の活躍の機会が、減少してはおりませんが、会の充実は喜ばしいことです。近年は、平成二十七年宮城県中山平温泉、平成二十八年度福島県磐梯熱海温泉、平成二十九年山形県かみのやま温泉での開催でした。

その間の参加者は、毎年二十〜三十人規模で、宮城、福島、山形、岩手、埼玉、栃木、千葉、最も遠方では京都からと、南東北に広範囲からお越しいただいております。参加の皆様は、下水道事業団の研修生や先生がほとんどかと。また、現在も下水道事業に関わっていたり、下水道から長

年離れていたたり（私も十年ほど）、自治体の首長等だったり、退職されていたり（会の高齢化により、主要な方々は、ほとんどここに属しますが）。

懇親会等においては、下水道関係の情報交換もありますが、私自身は、何について話しているのか、正直、自分でもよく覚えていません（酒のためか）。しかしながら、毎回、時間はあっという間に過ぎていきます。後日、出会った方と仕事で関わったり、仕事上・その他で問い合わせ等をいただいたりすると、何だかうれしい感じがするものです。

以上、甚だ簡単ではありますが、同会の概要・近況でした。来年の宮城開催を、楽しみにしているところです。

事業団研修からスタートしたつながりを大切にするとともに、最後ではありますが、下水道事業団、並びに皆様の「わ」の発展をご祈念申し上げ、結びとさせていただきます。

なお、最後の最後ですが、同会山形県支部では、「わ」を大切にされる方の入会を期待しております。興味のある方は、阿部まで連絡をいただければ、県内どこにでも説明に伺います。



「J S 研修山口三人組」 「おいでませ山口」 「山口みずのわ会」

山口県柳井市水道課

課長補佐 田原 章



識がないので、下水道法22条の有資格者育成のための研修（平成19年11月26日から12月14日まで17日間の実施設計コース管きよII（第4回）指定講習）を受講しました。

突然、渡邊先生から「研修みずのわ」への原稿依頼があり、物書きが苦手な私にとって、荷が重い感が沸き、思わず「えー」と答えましたが、J S 研修で数々の不名誉な伝説をつくりご迷惑をおかけして大変お世話になった渡邊先生の顔を思い出して、厳しくもあり、楽しかったJ S 研修の思い出や山口県での交流会を紹介できればいいのかなど、寄稿させていただくことにしました。

私が受講したコースは、総勢28名の参加でした。席は、一番前で机の上には見たこともない資料の数々、不安は頂点に達していました。初日夜は、歓迎コンパを開催し、自己紹介や全国各地のご当地自慢を聴き、熱く語りあえたことを思い出します。その中に山口県から私以外に2名の参加者があり、心強く思い、山口県人会が結成されました。2次会に出たのは良かったのですが、盛り上がりすぎて帰りにタクシーがなく、雨が降り始め、急いで走って帰りまし



たが、門限に間に合わず始末書となりました。副幹事としてやってはいけない不名誉な伝説を作ってしまったのです。ここで付けられた愛称が「山口三人組」でした。いきなりの事に落ち込んでいましたが、他の方から「皆これで緊張と不安が解消されたのではないか」と言ってもらえ、少し立ち直ることができました。

J S 研修でもう一つ伝説があります。それは、効果テスト前の模擬試験で最低点だったことです。私は以前に、第2種下水道技術検定試験にチャレンジし不合格でしたが、少しは下水道の「げ」の字が解ったつもりで効果テストを軽くみていました。これはヤバイと思いい事前に

間での資料作成は大変でしたが、与えられた時間に自分たちの考え方や意見が出し合え、プレゼンで全員が発表できたことは滅多にない良い機会だったと思います。施設見学では、シールド工法や巨大な雨水貯留施設を見せて頂き、ビデオで見たことはありましたが、実際の迫力にすごい経験ができたことを嬉しく思っております。



デスクッションでは、準備のため時間を利用し、夜遅くまで資料作成を行いました。短期

もらった自習問題をひたすら覚え、その甲斐あって効果テストは良い点でホッとしたことを記憶しています。

この研修で業務に役立つ知識を学べただけでなく、多くの研修生とも交流を深めることができ、本当にいい財産になりました。

その後は、翌年に高橋先生が山口県へお越しの際に「おいでませ山口2008」が始まり、2回目以降は、渡邊先生をお迎えしてこの会を、防府市の友景課長を中心に6回開催後、平成29年「山口みずのわ会」が発足しました。

この会の特徴は、渡邊先生が山口県にお立ち寄りになられた際に、先生とのご縁を再び県内各地から集まることと、これからJ S 研修を夢見る若手職員が、来年は渡邊コースにお世話になりたいと集い、新たな人の繋がりが生まれることです。

そこには、渡邊先生との共通の話題で繋がっていく、まさに「みずのわ」の名前の由来の如く、滑らかな水面に落とされた一滴の滴がつくる波紋が大きくなり、幾重にも重なり広がるのと同じように、老いも若きも一緒になって語り合い和ができ、絆

が深まる交流会があります。

今後もし研修で結ばれた絆を強くたく次世代に伝えるために、「山口みずのわ会」を楽しく、有意義な会となるように参加するとともに、末永く会が継続できるとよう尽力してまいりたいと思っております。

最後に山口県柳井市を紹介させて頂いて結びとします。柳井市は、山口県の南東部に位置し、東と北は岩国市、西は田布施町

及び平生町、南は室津半島の半ばで上関町に接し、瀬戸内海に面しています。

また、大島瀬戸は、日本三大潮流として知られ、万葉集にも登場しています。中世に入ると周防国における海上交通の要衝として重要視され、江戸時代には、瀬戸内屈指の商都として発展し繁華を誇っていました。中心部の「白壁の町並み」は、江戸時代中期の豪壮な商家が軒を



筑豊みずのわ会

直方市上下水道・環境部

下水道課 主査 村中 修平



連ねています。松本清張が『果実のない森』の中で「珍しい町の風景だ。近年、こういう古めかしい場所がだんだん少なくなっている。世に有名なのは伊豆の下田と備中の倉敷だが、ここもそこに負けないような土蔵造りの家が並んでいる」と紹介しています。幕末・維新の時代になると、この地域から、多くの志士が輩出し回天の偉業をなしています。2018年は、

明治維新150年を迎える年であることから山口県が明治維新に重要な役割を果たしたことを振り返り、その精神に学び、明治維新150年プロジェクト「やまぐち未来維新」の中核イベントが、山口きらら博記念公園（2018年9月14日～11月4日、山口市）で山口ゆめ花博が開催されます。ぜひ山口県へ柳井市にもお越しください。

で、承知せざるを得ない雰囲気がありました。大変光栄な事であり感謝申し上げます。

はじめに、研修会報「みずのわ」の51回目の発刊おめでとうございます。この度は文才のない私に渡邊良彦先生自ら寄稿依頼の声を掛けて頂きましたもの

私と事業団との出会いは4年前の平成26年度に実施されました「実施設計コース 管きよ設計II」の研修に参加させて頂いたことから始まります。本市では毎年職員を研修に参加させて頂いておりますが、その年は渡邊先生より幹事という大役を仰せつかりました。私ごとき若輩者に務まるのか…。不安を感じ



ていましたが先生をはじめ、研修生の皆様の暖かいご支援の元、無事大役を果たすことが出来ました。改めて御礼申し上げます。

研修も無事終わり、事業団や先生との関係もこれまでか…。などと思っていましたところ先生から1本の連絡が。なんと先生が福岡に来られると。詳しく聞きますと30余年も続いている「福岡みずのわ会」なるものが存在し、毎年盛大に同窓会が行われていたのです。そのよう

な伝統のある会に私と、共に事業団研修に参加した隣町M市の方を招待して頂きました。久しぶりに会う先生や先生を慕う卒業生と事業団での思い出や先生の若かりし頃の武勇伝など、楽しいお話を聞くことが出来ました。そんな中、福岡でこのような盛大な同窓会が開かれているのであれば直方でも開けばいいじゃん！という気持ちに掻き立てられていた矢先、先生から「直方市を表敬訪問する。」というお話を頂きました。これは絶

好の機会だと思いい、過去の卒業生や近隣市町の下水道事業の職員をかき集め先生をお迎えしました。しかし本市をはじめとするこの筑豊地方はこれといって名物になるものがないまま皇や旧産炭地の遺跡しかありません。でもちやうどその頃、NHKの連続テレビ小説で「花子とアン」が放送されていました。正に旬な話題ですので本市が誇る石炭記念館を見学することにしました。その記念館の館長が名物館長で話がとにかくおもしろい！先生とすっかり意気投合してました(笑) 全国の皆様もぜひ直方市にお立ち寄りいただき、石炭記念館を見学されてください！その後の歓迎会では本市をはじめ、近隣市町の卒業生も集まり盛大に行われました。みんな昔話に花が咲き楽しそうにしておりました。よかったですよかったです。私の役目もこれにて終了…。が、余程私の歓迎が良かったのでしよう。それからというものの毎年先生に直方へお越し頂き、筑豊みずのわ会として同窓会を開催しております。

みずのわ。水が育む人の輪。一人ぼっちで片田舎から埼玉へ

行った研修。たった3週間過ぎただけですがごんごん人の輪が広がっています。福岡みずのわ会では、今では県下8市町の先生を慕う卒業生が集まっております。筑豊みずのわ会でも近隣市町のみならず他の市町から先

J S 研修と「福岡みずのわ会」

福岡市 環境局 環境監理部 環境調整課

濱田 雅史



生を慕って集まっております。このような人の輪を紡ぐ機会を与えてくださった事業団をはじめ渡邊先生に感謝申し上げます。
長文・乱文失礼致しました。

受講にあたり先輩から「まずは渡邊先生に挨拶に行くように！」との送り事項があり、担当教官ではない方に「何故？」と少々緊張してご挨拶にお伺いしたことを覚えております。そして、その謎は研修中に他コースの研修生と一緒に連れていかけていただいた夜の街で解けました。先生から「中牟田啓子さん知ってる？」と尋ねられ、「先輩職員ですが」とお答えすると、「私の奥さんの幼馴染みなんだよ」と。(後日、中牟田先輩とは「世の中狭いねえ」と話したものです。) さらに背広から奥様やお子様様の写真を取り出し満面の笑顔で見せてくださいまし

この度は、日本下水道事業団発足45周年誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、この記念すべき年に研修会報「みずのわ」に寄稿させて頂いたことを大変光栄に思います。

私は、平成21年度に「維持管理コース事業場排水対策」を講講させて頂いたのですが、研修

た。(ご存じの方も多いかと思
います。ご家族の写真を肌身
離さず持ち歩いていらつしやる
のです。)

それからというものの、毎年度
末の「福岡みずのわ会」で先生

とお会いし、ご家族の写真を拝
見しながらお話しすることが私
の楽しみのひとつになっていま
す。また、渡邊先生のお元気な
姿とご家族の写真を楽しみにお
待ちしております。

福岡市 財政局 技術監理部 技術監理課

牟田 拓矢



私は、昨年の事業団研修の「実
施設計コース 管きよ設計Ⅱ」
を受講しました。

まずは、福岡市の慣例となっ
ている渡邊先生への挨拶のため
事務室を尋ね、これまでの福岡
市の先輩方との深い繋がり的事
や私の出身地である福岡県柳川
市の話題で大変盛り上がり、開
講式ギリギリまで、とても気さ
くにたくさんの話をして頂きま
した。

研修では、約3週間に渡り、

推進工法や立坑などについて、
しっかりと学ばせていただき、
研修後半には、シールド工場の
現場見学もあり、これまで、大
規模な現場を見学する機会が少
なかったため、現場代理人の方
にたくさんの質問をさせて頂
き、とても貴重な時間でした。

また、この研修で知り合った
他の自治体の研修生とは、1年
経った今でも連絡を取り合いな
がら、お互いが行き来するなど、
公私を超えた交流が続いており
ます。

研修センターでの出来事は、
技術の習得に留まらず、組織を
超えた人の繋がりを生み出す場
にもなっており、今後も、機会
があれば是非、参加したいと考
えています。

福岡市 道路下水道局 計画部 下水道事業調整課

豊福 俊佑



いただきました。

他の自治体の研修生には、「類
繁に朝、渡邊先生に呼び出され
る福岡市の研修生」として有名
になり、名前を覚えてもらいま
したが、これも渡邊先生と「福
岡みずのわ会」の長く深いお付

き合いのおかげであると感謝し
ています。
最後になりますが、日本下
水道事業団の益々のご発展をお
祈り申し上げますとともに、私
も「福岡みずのわ会」の一員と
して渡邊先生とお付き合いをさ
せていただき、末永くこの会が
継続していけるように微力では
ありますが尽力していきたいと
考えております。

私が、事業団研修の「実施設
計コース管きよ設計Ⅱ」を受講
させていただき、はや3年が経
ちました。私も先輩方から「研
修所に着いたら、一番に渡邊先
生のもとに挨拶に行くように」
と厳命され、緊張の中、研修所
の事務室の扉をたたいたのを今
でも覚えています。

研修では業務に直結した知識
を学んだだけではなく、他の自
治体から参加されていた研修生
との交流も深めることができ、
非常に有意義な研修となりました。

研修中、渡邊先生がいらつ
しやる日は、朝食と最初の講義
が始まるまでの間に、プライ
ベートな話や、過去の研修生の
現状など様々なお話をさせてい



研修施設の昔・今・未来

研修センター

所長 細川 顕仁

1. 昭和後期

(発足し本館棟(管理本館)完成)

研修センターでは、昨年度策定した中長期計画に基づき、今後施設の再構築等を行っていく予定にしています。工事の着手は来年度以降になりますが、これから研修センターの施設が変わっていくこととなります。ここでは、変わり行く研修施設について、発足当初から現在までを振り返り、そして未来へ向けた方向性についてご紹介いたします。



写真1 プレハブ時代



写真2 管理本館竣工時



写真3 当時の風呂(管理本館4階)



写真4 当時の寮室(4人部屋)

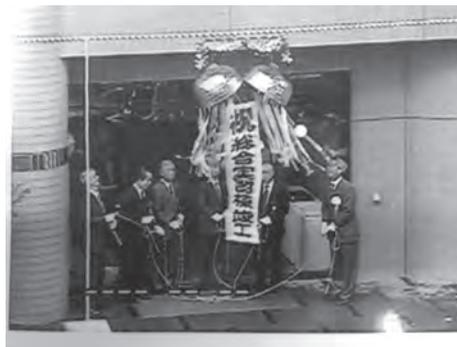


写真5 総合実習棟竣工

1. 昭和後期
(発足し本館棟(管理本館)完成)

J S 研修は、昭和48年2月の「実施設計コース管きよ専攻」を皮切りに始まりました。当時はまだ施設の整備が完了しておらず、建設大学校(現国土交通大学校)の施設をお借りして実施したものでした。昭和48年5月に荒川左岸南部流域下水道荒川処理センター(現荒川水循環

2. 平成初期

(総合実習棟完成)

時代は平成に移り、当初設置した設備等が更新の時期を迎えるようになってきました。そこ

センター)の敷地内にプレハブ棟が設置されて本拠地が定まり、続く昭和50年3月に現在の敷地に管理本館が完成し、今に至る研修事業が本格的にスタートしました。当時の寮室は2段ベッド×2の4人部屋で、食堂と風呂は4階にあり、天気の良いと風呂場から富士山が眺められたそうです。なお、昭和60年には管理本館の奥に現在の厚生棟が設置され、食堂も厚生棟1階に移動しました。

で2段ベッドの更新に合わせて、平成元年に寮室の改造(共有の勉強部屋を挟んでシングルベッド×4の部屋を2室つなげた8人部屋への改造)を行いました。その後、全国で下水道整備が急ピッチで進められるようになり、研修受講生も増加の一途を辿りました。このような状況を受け、研修事業の拡充を図るため、平成7年7月に、管理本館の向かいへ総合実習棟が建設されました。ここには研修室や各種実習室等が設置された他、1階に食堂が移設されました。また管理本館も3、4階に寮室等を設置するなどの大規模改造を行いました。

3. 現在

(本館棟耐震補強実施)

21世紀に入り、進みゆく施設の老朽化に対し、計画的な保全を行ってきました。ただ、いつ発生しても不思議ではないと言われている巨大地震への備えについては未実施でしたので、平成19年度に耐震診断を実施し、その結果に基づき平成22、23年度に管理本館の耐震補強を行いました。この補強に伴い寮室の一部も改造せざるを得なくなり、定員が4〜8人と5種類の部屋になって現在に至っています。

4. 未来

(新寮室棟の建設)

J S 研修が開始して間もなく半世紀を迎えようとしています。生活スタイルや受講生の J S 研修に対する考え方も変わってきています。新たな施設の建設及び既存施設の改造にあ

たっては、これら変化に的確に対応することを第一としておりますが、その一方で J S 研修の良き伝統は堅持していかなければなりません。寮室については、個人のプライバシー保持にも十分配慮しつつ、受講生相互の濃密な関係も構築できるようなものにしたいたいと考えております。

また、環境保全を担う方への研修の場であるということを念頭に置いた、環境に優しい施設となるような工夫も積極的に取り入れていく予定です。
新たな施設の建設は平成31年度に着工、平成33年に一部完成予定ですので、ご期待下さい。



写真6 総合実習棟外観



写真7 総合実習棟竣工時の食堂



写真8 総合実習棟竣工時の水質実習室



写真9 耐震補強後の管理本館

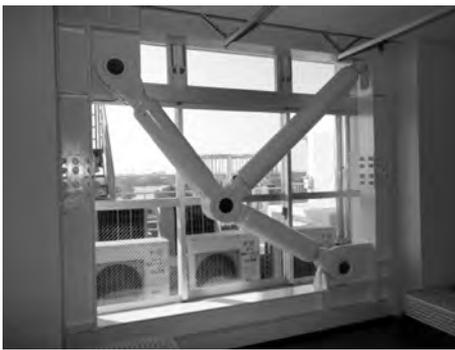
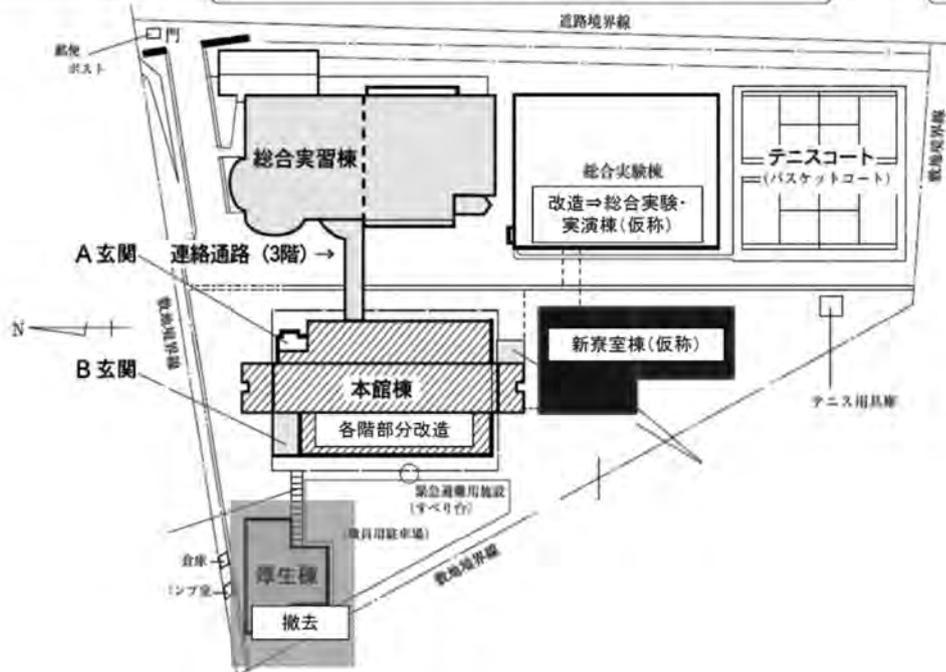


写真10 耐震補強(寮室内)

研修センター敷地内施設再構築最終イメージ



特別講義

パネル
ディスカッション危機を乗り越え…
今なお残る爪痕

○細川所長 それでは、「危機

を乗り越え：今なお残る爪痕」という題で、対談のほうを始めたいと思います。対談の参加者をご紹介します。宮城県の七ヶ浜町の町長の寺澤町長さん、熊本市上下水道局の岩本首席審議員さん、広島県廿日市市の原田副市長さんです。

熊本の地震からは1年半、東日本大震災からは約6年が経過したところですが、現在の状況について、ご講演の中でお話しされていないものがありましたらご紹介下さい。まずは寺澤町長さん、よろしくお願ひします。

○寺澤町長 少し宮城県の状況をお話させていただきますが、県内35市町村のうち、15

の市町村が津波により被災しました。現在も沿岸部の復興

事業は進められておりますが、復興期間内では、復興事業は終わらないと思っております。また、復興庁が、2021年にはなくなりますが、その後はどうなるのかを懸念しています。それから復興事業では、15の被災市町村、それぞれにまちづくりの考え方が異なります。浸水エリアでも現地再建もあれば、被災場所によっては、十数メートル盛り土をしてまちの再建をしている市や町もあります。これから、どんな町をつくるのか、人口が半減しているのに何千億円も投資し、一体どんな町をつくっていくのか、これから人が戻ってくるのだろうか…といった疑問

も正直あります。例えば、人口が6,000人、世帯数が

2,500世帯の被災した町に、総額2,500億円の投資がされて、新たなまちづくりを進めている町もあります。単純に割り戻すと、1世帯あたり1億円をかけてどんな町をつくるのだろうか。また、他のまちでは、人口が減り続ける中、50数億円をかけて公立病院をつくった町もあります。宮城県は今、医師不足という問題もありますが、復興後の長いスパンで考えると、今後どうなっていくのか、正直、先はわかりません。七ヶ浜町での住宅再建については、震災後、被災した住民との話し合いで、基本的に津波被災エリアではなく高台に移転することになりました。

再建にあたっては、できるだけ地域コミュニティを壊さ

ないように配慮し、5箇所の高台に用地を取得、整備し、災害公営住宅も同じエリアに建設して移転しました。復興後のまちづくりの考え方で、コンパクトシティをつくるのであれば、全て1カ所に集約する計画がいいかもしれませんが、本町はもともと町域が狭く、住民も地域コミュニティを大切にしたいということ、地区単位での高台移転となりました。反面、5箇所に分散しましたので、今度は、移転した地区を結ぶ公共交通の整備が必要となり、その面では行政経費がかさむなど、プラス面とマイナス面の両面があります。復興後のまちづくり計画において

は、各被災自治体の考え方が

第で異なります。また、復興業務にあたってはマンパワー不足が大きな課題です。結局、最後は人の力なんです。本町も、これまで愛知県の各市を中心、たくさん派遣職員に応援をいただき、やっとここに来て、被災沿岸部の復興後の姿が見えるままでなくなってまいりました。しかしながら、県内でも復興のトップランナーと言われる本町でも、復興事業の完了にはまだまだ時間がかかるというのが現状であります。

○細川所長 ありがとうございます

ました。復興と考えると、現状というより町長さんがおっしゃる通り将来どうしたいかが重要で、それも国や行政側が勝手に決めるのではなく、

住民の方々の意見も十分反映させていかなければならない。本当に今、難しい局面に差しかかっているんじゃないかなと思つたところでございます。熊本の状況はいかがでしょうか。

○**岩本首席審議員** 熊本市は、市長の方針から復興部という新たな組織を立ち上げまして、そこに土木関係職員を集めて、そこに土木関係職員を集中的に配置して復興に努めています。しかしながら、私どもの上下水道局は、企業会計ということで復興部とは別に対応することになっていきます。また、本来は、復興関係業務と通常業務で分けて対応していく必要があると思います。マンパワーが全然足りていません。通常業務として毎年、50億近くの未普及工事等を行っていますが、それに加えて70億ぐらいの復興関係業務も実施しなければならなくなりました。職員数は変わらないのに仕事は倍以上となりますので、職員の負担を軽減するためには通常業務を減らすしかない。しかし、通常業務については、地域の皆様にお約束をしている場合が結構

ございまして、それを遅らせることもなかなかできない。そのような状況を踏まえて熊本市では通常業務の一部についてJ Sさんへお願いするのことにしました。

○**細川所長** ありがとうございます。お二方に共通している悩みはマンパワー不足で、限られた職員の方々に、被災により膨れ上がった様々な課題、事業に対処していかねばならない。これは本当に難しいことだと思えますが、そういった被災されたところに対して支援を続けられているということ、今度は支援側の立場で廿日市市さん、支援の今の状況をお聞かせいただければと思います。

○**原田副市長** 東日本大震災が起きた後、どのようにして人を送るのがいいのか、我々も苦慮しました。広島県から見ると東北は遠いということもあり、職員の参加意欲が今一歩上がらないというところが最初の課題でした。消防や応急給水などは職務命令で職員を送り出しましたが、災害復旧やその後の復興事業に対する支援については行きたいという職員がなかなかいません

でした。当初はいわき市さんへ職員を派遣したのですが、期間は2カ月でした。短期間での交代となりますが、仕事については廿日市市が責任を持つてやる、やれる職員を送るからということで、2年間はいわき市さんへ職員を送りました。その後支援する都市をいわき市から松島町に転換したので、それは災害協定の関係もございまして、よろ縁が深いところに送ったほうがいいのではないかという理由からです。今度は半年から1年の派遣期間で、慣れもあって自ら志願する職員も結構できてきました。派遣された職員も、自分の仕事としての成果が喜ばれているとか、達成感も非常に多くあったとの報告も受けております。中には派遣期間が終わった後でも個人的に年に一、二回松島に向いていつている者もいます。人との強い繋がりもできました。職員の派遣は、非常に松島町さんには申し訳なかつたのですが、昨年の3月に終了となりました。派遣期間中はご丁寧な松島町さんから町長さん、副町長さんがお礼と復興状況のご説明に毎

年来られていました。

○**細川所長** ありがとうございます。通常ではない事態の中で一緒に厳しい仕事をしていくと、互いのつながりは本当に強くなると思います。人の話ですけれども、今、七ヶ浜町さんには支援の方は何人位来られていますでしょうか。

○**寺澤町長** 今でも愛知県の各市から16名の派遣職員に来ていただいています。原田副市長さんがおっしゃられたとおり、東北に来るのは最初は勇気が要るみたいです。震災当初、派遣期間3カ月または6ヶ月という自治体もありました。短い期間では何も形にならないまま、それこそ言葉も十分分からないまま帰ることになり、派遣職員の皆さんからは、最低でも1年間はやりたいたいという声が多く聞かれました。

また復興にあたっては、時間の経過とともに、派遣職員の対応業務の内容も大きく変わります。最初は、瓦礫の撤去や仮設の設置など復旧業務、そして同時に復興にかかると画策定や用地取得に関する業務、造成計画、区画整理、そ

して公共施設の建築改修や設計など、職員の派遣をお願いする町側としても、時間の経過とともに要望する人材が変わってまいります。おかげさまで、本町では要望に対処していただき、最も多いときで26名の派遣をいただきました。

6年半経過した今も、16名の派遣職員の方に応援していただいています。余談になりますが、応援に来られた40代独身の男性が、町の女子職員と結婚した方もおります。派遣先の市から応援に来てもらっているのに、それを盗っちゃうみたいで、派遣元の市長さんや派遣元の部署に申し訳ないという気持ちでした。結局、派遣期間終了後、派遣元の市長さんの了解ももらって、今はわが町の職員として引き続き復興業務に取り組んでもらって助かっています。また逆に、派遣で来ていた男性職員と町の若い女性職員が結婚して愛知県へ嫁ぐなど、ホットな人事交流?もありました。

嬉しいのは、これまで派遣で来ていた方が、地元に戻ってから、プライベートで年に2

回ぐらい七ヶ浜に来て、復興の状況や職員や地元の方と交流が続いている方が多く、有り難いと思っています。復興業務への人的、技術的な提供だけではなく、人と人との関わりの中で、いろんな心温まる交流ができていくというのも、皮肉なことに、この震災がなければなかった話だと思います。

○細川所長 相手の女性の方の魅力も相当なのでしょうが、町の魅力もあって、七ヶ浜に住みたいと思われたのでしょうね。40歳を過ぎて定住地を変えるというのは、思い切った決断が要ることと思うのですけれども、いい町なのでしょうね。ありがとうございます。熊本市さんは、東北の大震災のときは支援側だったと思いますが、今回は地震があつて、受け入れ側となりました。この6年の間に両方をご経験されていると思えますが、支援をされていた時の送り出す側の課題、それから支援を受け入れる際の課題それぞれ立場で何かありましたらご紹介下さい。

○岩本首席審議員 熊本市は、東北地震のときは下水道の支

援はなかったと記憶しております。ただ、下水道の支援はやらせていただきました。2トン車の給水車を、熊本市から水を満杯にして、高速道路で走って、初日は名古屋の手前まで。その次が東京のちよつと先まで。最終的には相馬市付近の内陸部のほうに給水拠点を設けさせていた。日本水道協会からの指しで、それぞれ拠点を移しながら支援をしました。過去に宮崎で水害が発生した時に支援した経験もありまして、1週間程度で交代するような体制になるだろうと想定して当初の要員を確保していたような記憶があります。

今回、熊本地震が初めてだったと思いますが、上下水道においては、国からのプッシュ型支援というものを受けました。東京都付近から1,000名の職員を送りますと厚生労働大臣から言われたのですが、一番困ったのが宿泊施設です。熊本市内のホテルは報道機関や警察の方が先に押さえられている。それでは、どこに宿泊してもらうのが良いのかを検討した結果、上下水道局の庁舎に寝具を持ち込

んで泊まっていたことにしました。時間制限はありませんが、シャワー設備もあり、8畳ぐらいのスペースに8人位で寝泊りしていただきました。今回、プッシュ型の支援を初めて受けたのですが、その際の受け入れ体制に苦労したことで、災害時の受援体制をどうするかという新たな検討課題を認識するようになりました。

○細川所長 そうですね。支援に来ていただくとは本当にありがたいお話だと思うのですが、れども、一方で受け入れ側もそれらの方への対応等が大変になる場合もありますよね。自治体さん同士の支援以外に、ボランティアの方も結構来られたと思うのですが、その辺について、町長さん、いかがですか。

○寺澤町長 七ヶ浜町では、延べ約8万人のボランティアの皆さんに来ていただきました。その対応にあたっては、町の社会福祉協議会で受け入れをしていただきました。とても良かったことは、名古屋のNPO法人レスキューストックヤードの皆さんに支援をいただいたことでした。そ

の方たちは、震災直後から七ヶ浜町を長期的に支援をしたいということ。一生懸命、町の人たちのサポートしてくれました。その法人の代表の方は以前、宮城県沖地震に関する防災講演をいただいたことが縁で、信頼できる方でしたので支援いただくことを即決しました。町が承諾する形で、NPO法人ではゲート

ボール場に2階建てのプレハブを建て、2階はボランティアで遠方から来町する方のための宿泊所となりました。3月11日の震災から2週間後には、プレハブ建設が始まりました。震災当初は、町の職員も目先の対応で余裕がなく、殺気立っておりまして、町外から来た方にいきなりいろんなことを言われても、何から手をつけ、どうすればいいのかトラブルの連続だったと思います。「震災では、私たちの対応は」なんて、格好良く言う人もいますが、実際、現場はもう殺気立ってますから、本当に人間関係がうまくいかない大変なんです。最初は、町の関係者も無我夢中だったので、受け入れにおいては色々ありましたが、N

POのサポートもあり、やがて結束力も高まり受入れ体制が構築できました。

しかし、そういかなかった町もあつたようです。そこは首長さんがちよつと余計なことを言ったらいいですね。「うちの町職員の対応では話にならない。前職の職場の職員であれば、もっと優秀で気の利いた対応ができた、支援やボランティア受け入れも支障なくやれるのだが」といった言動により、現場はトラブル続きだったという話を聴きました。

確かに首長さんにしてみれば、そのない迅速な対応を求めるのは分かるのですが、当初は災害対応の経験がなく、とまどいや費用面での裏付けもない中、勝手に指示できなかつたことも事実なんです。結局、住民の顔がわかり、地理や地域の状況を一番知るのには職員ですので、職員を信頼して進まないと復旧・復興はうまくいかないと思えます。

○細川所長 貴重なお話、ありがとうございます。それは、次に、こういった大きな地震とか津波とかを経験さ

れ、あるいは支援側の立場で
お手伝いをしたという中で、
今後の地震・津波対策につい
て、お考え等がございました
らご紹介ください。原田副市
長さんからお願いします。

○**原田副市長** 今後の津波・地
震対策ということでございま
すけれども、本市の場合の対
応ですが、幸い瀬戸内海で
ので、想定される津波の高さ
は1.6mで、その最高水
面を考慮してもTP3.6m。
大体おおむねの地盤は3m以
上なので、あとは防波堤が機
能するかどうかということ位
が課題かなと思っています。
ただ、地震に対しては、BC
Pを考えていく中で足りない
ものが多いという認識に至っ
ています。例えば緊急時の通
信手段や燃料の確保。そらか
ら下水道施設が被災した時の
応急対応設備の整備など。い
ざという時に備え、それが
起こったときにストック・整
備したものをどう活用してい
くかを常日頃から考えていか
ねばならないの思いを強く
持っております。

○**細川所長** ありがとうございます
ました。東日本大震災でス
トックの考え方も改めさせ

られましたね。次に寺澤町長
さん、お願いします。

○**寺澤町長** 東日本大震災前
は、30年以内に90%以上の確
率で宮城県沖地震が発生する
と言われていました。東日本
大震災が起き、1000年に
一度といわれる大地震が起き
て、宮城県沖地震はもう来な
いという話はどこにもない
わけです。ですから、この
大震災の経験を踏まえて今後
の対応も考えていかなければ
ならないと思っています。た
だ、震災から6年たって、そ
のときに生まれた子供たちは
小学校に入り、そして学校
の先生たちも、時間が経つと
転任でいなくなっているん
です。100年後、200年後、
500年後まで今回の震災の
記録や記憶を伝えていくこと
が重要だと言われますが、被
災した子どもたちも実感がだ
んだん遠のき、その話をしな
くなっています。ですから、
新たに避難訓練を考えていか
なければなりません。今回、
沿岸部の防潮堤は、50年から
100年に一度の津波に耐え
られる防潮堤を作っています
が、東日本大震災のような千
年に一度といわれる津波が襲

来したら、防げないことから、
もっと高台に逃げなさいとい
うことです。今、作っている
防潮堤や防災対応が全て完璧
かという、完璧じゃないとい
うことを知っておかなけれ
ばなりません。人が変わり、
被害の記憶や教訓なども、ど
んどん忘れられていきます。
今回は震災で、津波対策を
中心に考えた対応ですが、地
震災害や豪雨対策なども含め
て、これからは考えていかな
ければならないと思います。

○**細川所長** ありがとうございます
ました。最後に熊本市の岩本
さん、よろしくお願いします。

○**岩本首席審議員** 熊本市の津
波対策といたしましては、有
明海が西側にございまして、
南海トラフ地震発生時の想定
津波高さは3m程度で、沿岸
部から最大でも4キロぐらい
のところまでしか来ないだろ
うと言われております。下水道
施設では沿岸部に西部浄化セ
ンターがあるので、そこ
は5m位の津波では浸かるこ
とはないようになっており、
場合によってはそこが近隣住
民の方の避難場所となる可能
性が高いです。熊本地震の際
には西南部の低地のところに

ついて津波の恐れがあるとの
情報があつて、地域の住民が
避難するという状況が2回ぐ
らいあつたのですが、皆さん
車で非難しようとして渋滞と
なり全然動かない事態となり
ました。市長からも、住民の
方が自分たちの逃げる道、逃
げる場所というのを常日頃か
ら想定し、逃げ方をどうい
ふうにするかを考えておく必
要があるという話もされてい
ます。災害発生時に私が一番
問題にしているのは、職員が
どういふうに行動するかと
いうことです。厚い災害対策
マニュアルというのがあるの
ですが、先の熊本地震の時に、
これを持っている職員は、う
ちの課で恐らく私を含めて2
人ぐらいしかいませんでした。
下水道BCPはわかるけ
れども、その上位の災害対策
マニュアルというのを知って
いる者はほとんどいなかった
ですね。自分たちがどう行動
すべきかについて文言で書い
ても職員は読みません。厚い
文書をつくって、あなたた
ちはこうするんですよ、こう
するんですよと書いても、多
くの職員が、それを読まない
という現実があります。です

ので、水運用課では、あなた
たちはこれをするんですよと
いうのをA4サイズの1枚で
フローチャートを示していま
す。災害発生時には1人で何
役もしなければならなくなり
ます。順番的に、これが終わっ
たら、次はこれをする、次に
これをするという話になりま
すので、マニュアルで文書を
つくるのも大事ですけども、
一目で理解でき、スムー
ズに行動できるようなものをつ
くる必要があると思ってい
ます。

○**細川所長** ありがとうございます
ました。BCPや災害対策マ
ニュアルに、色々なことを書
いて欲しいと要望される所
もあるのですが、まず皆さん
がすぐ行動できるシンプルな
ものをまとめるというのも大
事ですね。

○**寺澤町長** 今日聴講されてい
る皆さん優秀な技術屋さんだ
と思うのですが、災害時な
ど、困った時に意見を聞きた
いのは皆さんのような技術屋
なんですよ。例えば大雨が
降って浸水した場所への緊急
対応で、8インチの水中ボ
ンプを入れればいいのか、6
インチでも何台入れればいいと

か、ざっとした計算のできる人は頼りがいがあるんです。けれども、水中ポンプを動かすのに何KV Aの発電機が必要で、其の発電機で何台中ポンプを回せるかといった応用の利く人は少ないのが現実です。工事積算ができれば技術屋じゃありません。平常時では、例えば下水道管の埋設工事の発注に向けて、設計図面の作成、数量の取りまとめ、積算とパソコン操作でできますが、災害時においては、実際にここで何台の水中ポンプを入れ排水すれば、何時間位で何トンの排水ができるのか、ざっと計算できたり、この口径の下水道管を埋設するのに、1メートルあたり幾らくらだとか。今、防潮堤を建設しているけれども、メーター当たり換算すると何百万円かかっていますかとか。そうすると、大体、概算で予算はいくらぐらいあればできるといった判断が計算できるんですね。大雨が何ミリ降ると予想された場合においても、このエリアが浸水すると仮定して、現場の地形を一番よくわかっているのは、技術屋さんだと思うんです。対

応にあたっては、予想される排水量を行うためには、口径6インチの水中ポンプが何台必要で発電機の容量はこれくらいあればいいとか、設置場所はどこがいいとかといったことが、大体、頭の中でざっと計算できる人がいると心強いわけです。災害時とか緊急時は、走りながらものを考えられる人じゃないとだめなんです。だから、できるだけ普段からそういったことを意識して欲しいと思います。そういう癖をつけてもらいたいなと思います。偉そうなことは言えませんが、土木は経験工学だと思えます。日頃から色々なことを幅広く考え、そうすることで色んな引き出しを持つようになります。そうすれば災害時やその他、様々な場面でも対応できると思っています。繰り返しになりますが、いろんな場面を判断するときには一番頼りにするのは、皆さんのような技術屋さんですから、そのことを是非、今後、心がけていただければと思います。

○細川所長 最後は今日聴講されている若い人たちに一言ずつお言葉を頂戴しようと思つていたのですが、口火を切っていたいてありがとうございます。では原田副市長さん、激励の言葉とかありません。一言お願いします。

○原田副市長 全く同じような話なのかなと思います。私も土木屋ですが、建築も経験しました。都市計画もだし、下水は当然でありますけれども、いろんなことを経験させていただきました。やはりこの年になってくると、自分の経験をどのように職員の方に継承するのかなということをすごく意識するようになります。技術屋というのは想像する力だろうと思つています。災害が起きて、この雨が降ったら、どこがどう浸かるだろう。それでは皆亡くなってしまう。ではどうするか。みたいな、前へ向いた意欲を常に持っていたいただきたい。下水道だけではなくて、インフラの整備というのは総合行政だと思つていますので、皆さんにはしっかりと技術力であったりとか、あるいは市民の思いであったりとか、視点を変えて、いろんな形の中で判断できる技術屋になっていただき

たいと思います。頑張ってください。

○細川所長 ありがとうございます。最後に岩本さんお願いします。

○岩本首席審議員 お二方は行政側のトップとナンバー2ですが、私は行政の中間管理職でございますので、上から責められて、下から責められて、非常に厳しい立場でございます。私からお願ひしたいことは、何でも前向きに行動していつていただきたいということです。皆さん、自分から経験したいことがいっぱいあると思うんです。例えば、浄化センターの仕事、どういう仕事をやっているか自分もやってみたいと。これは向上心ですよ。管きよの設計をやってみたいとか、あるいはポンプ場の設計をしてみたいということ。今回、皆さん研修を受講されに来ておられますので、いろいろあるかと思ひます。異動を希望する職員には「この仕事は嫌だから異動させてください」と言う者と、「私はこの仕事がいいから異動させてください」と言う者の2タイプいます。私のところにも、「僕はこうい

う仕事をしたくない、ここに異動させてください」と言うてきた者が何人いるのですか、そういう職員というのはかなり伸びました。向上心がある職員は将来的に伸びると私は思っております。僕はこうしたいけど上司に言うのと逆に何か言われるかも知れないと考えるより、自分がやりたいことをはっきり言える職員になって下さい。私は来年の3月末で退職をいたしますが、皆さんは先が長いと思いますが、皆さんは20年、30年という形で下水道に携わっていく職員になることを期待しております。これからは是非向上心を持って頑張ってください。

○細川所長 どうもありがとうございます。長時間にわたって、特別講義を進めさせていただきましたが、閉会の時間となりました。3名の特別講師の方々に、最後に、もう一度、盛大な拍手をお願いします。拍手がとうございました。(拍手)

特別講義体験記

宮城県七ヶ浜町長



寺澤 薫

あの東日本大震災からもうすぐ7年を迎えます。今も全国各地で大規模な自然災害が発生し、多くの被災者が苦難の日々を強いられています。このことは、被災していない地域においても、まだ「未災地である」との思いで、防災意識の普及・啓発に取り組むことが大切だと考えます。

そのような折に、特別講義「危機を乗り越えて：今なお残る爪痕」へのお誘いをいただき、全国各地で活躍する研修生に、我々の体験をお話しをする機会をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、私も研修生として「みずのわ」の一員となつてから早や26年。この「研修みずのわ」でお馴染みの「宮山福会」をはじめ、事業団の皆さん、渡邊良彦特任教授、青木実研修企画課長の両氏とのお付き合いは現在も絶えることなく続いており、震災体験を通じた講義をさせていただくなど、同センターとの繋がりは年々強まるばかりです。

平成29年8月の講義の際には、全国各地から志を胸に集まったフレッシュな研修生たちの真摯な眼差しを目の当たりにした時、ふと私が初めて受講した当時が蘇りました。

今回の津波そして地震被害における特別講義では、広島県廿日市市の原田副市長さん、熊本市上下水道局の岩本さんとの出会いもあり、大変貴重なお話を伺うことができました。

廿日市市では、七ヶ浜町の近

隣の松島町へ復興支援職員を派遣されていたとのこと。また熊本市からは、震災直後、本町に支援職員を派遣いただくなど、廃棄物関連業務に日夜ご尽力いただきました。平成28年4月の熊本地震発生時には、その御礼とお見舞いに伺ったばかりでした。改めて下水道事業団が繋ぐ不思議な「ご縁」を感じずにはいられません。

研修生の皆さんにも、この研修での「縁」を大切にして欲しいと思います。今は連絡一つとるにしても便利な時代になりました。特に、若者たちをはじめ、メインデバイスはスマートフォン。スマホがあればいつでも片手で情報収集ができ、友人や見知らぬ相手さえもSNSを通じて驚くほど簡単にスピーディに繋がります。しかし、相手の表情や心の動きまでは読み取ることができません。経験上、事業団の研修がきっかけで繋がった顔の見える付き合いが、26年という時間が経過した今も、私の貴重な財産であります。このような時代だからこそ、下水道事業団研修センターの果たす役割は大きいのです。

全国から集まった仲間たちと共に学び、酒を酌み交わし語り

合う。そこには、デジタルだけでは築けない人脈と人情の機微を知ることができます。それは人生の財産となります。

研修を通して、水面に投じられた「みずのわ」の一石は、幾重もの輪となり、知識や技術を越えて、友情の絆として全国に広がってほしいと思います。卒業生の1人として、これから1人でも多くの職員が研修に参加されることを願ってやみませ

広島県廿日市市 副市長



原田 忠明

す。渡辺先生から、各研修室など施設全体の説明を受け、また、宿泊もさせて頂き、当時の懐かしさとともに、充実した研修環境を実感し、日々研修に励んでいる研修生を大変羨ましく思いました。

今回の講師は、かねてより親交のある渡辺先生からの依頼ということでお引き受けしましたが、20分間という特別講演の受け持ち時間の中で、何をお話ししたら良いかと大変悩みました。演題が「東北・熊本地震災復興状況と支援都市側の内情について」とされていたため、「演

特別講義の日程は平成29年8月29日でしたが、JS研修での講師が初めてと言うこともあり、前日の8月28日に研修センターに入らせて頂きました。研修生として、最後に研修センターを訪れた昭和62年以来、実に30年ぶりということになりま

ん。

結びに、今回の特別講義でお世話になりました広島県廿日市市原田副市長さん、船倉さん、熊本県上下水道局の岩本さん、岡本さんには重ねて御礼申し上げますと共に、このような素晴らしい機会を設けてくださいます事業団研修センターの関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

題の趣旨に沿っているか」「研修センターの想いに沿っているか」など、いろいろ検討を重ねました。

廿日市市から東日本大震災時に延べ91名、広島市豪雨災害時に延べ203名、熊本地震時には延べ28名の応援職員を派遣した経験に沿って、時間軸とともに、人命に関わるものから、避難者支援、行政支援と要請業務が変わるとい内容の「災害時の行政の応援」と、過去に本市で起こった土砂災害の歴史を盛り込んだ「宮島の浸水対策」の2点に絞り込みましたが、研修生の大半が技術職員であったことや、地震だけでなく他の災害についても注視すべき事、世界遺産で有名な「宮島」でも大規模な土砂災害の歴史や下水道の課題がある事を知って頂きたいという思いから、演題を「宮島の浸水対策について」としましたが、受講生の側に立つてみると最適であったのかと、今でも考えています。

今回の研修では、畑田理事様や細川研修センター所長様など、日本下水道事業団研修センターの皆様や、寺澤七ヶ浜町長様、岩本熊本市上下水道局主席審議員様をはじめ、多くの講師

の皆様と時間のある限り意見交換ができ、また、お二人の特別講義での話から、本市の下水道施設のBCP策定に当たって、地震災害が発生した場合の準備すべき備品や受け入れ態勢の整備、関係団体との災害協定の締結を早期に行なう必要性など、自分自身が担う具体的な役割と行動計画を認識する事ができ、大変有意義な体験をさせて頂きました。

最後に研修生の皆様には、2時間半にも渡る講義にも関わらず、集中して熱心に受講して頂きました事にお礼申し上げます。これからも下水道分野だけでなく各自自治体の行政を牽引する職員として成長され、ご活躍されますことを祈念申し上げます。

また、今回の機会を与えていただきました渡邊先生をはじめ研修センターの皆様へ感謝申し上げます。お礼の言葉とさせて頂き



熊本市上下水道局計画整備部 首席審議員
(復興・防災担当) 岩本 英紀



はじめに

特別講義の講師をお受けするにあたり、日本下水道事業団研修センターの渡邊特任教授より今回の特別講義では、平成28年熊本地震での様々な教訓を踏まえ、災害の記憶を風化させることなく当研修センターの研修生へも継承していきたいというお話を聞きまして、先生の研修生への思いと、各都市から集まる研修生に対して、中々お話しする機会が少ないために快くお受け致しました。

特別講義の概要

② (担当:青木教授)、管きよ

設計Ⅱ② (担当:渡邊特任教授)の合同による特別講義には、受講生ら約60人が参加し、平成28年熊本地震による被災状況ならびに受援体制についてお話しさせて頂きました。また、パネルディスカッションのパネリストとして参加させて頂きました。これは日本下水道事業団研修センターでは初の試みとお聞きしましたが、私も初めてのパネリストとして貴重な体験をさせて頂きました。

平成28年熊本地震では、熊本市において震度6の地震を2度にわたり経験しており、下水道施設においても多大な被害を受けました。その中で、下水道施設においては、被災状況を調査するために「21大都市災害時相互応援に関する協定」に基づき、東京都および19政令指定都市に協力を頂き、延べ2,246名の御支援を頂きました。また、

全国上下水道コンサルタント協会と日本下水道管路管理業協会には、災害査定資料作成の協力を頂き、延べ2,816名の

方を派遣して頂きました。多くの方のご支援のもとに、調査を実施しましたが、支援隊集積基地内での作業スペースの確保や調査するための資機材の確保、支援隊の宿泊地の手配等、様々な問題が生じましたが、それらの苦労点や今後に向けての改善点などを被災都市の立場として受援体制について講義をさせて頂きました。

また、パネルディスカッションでは、「危機を乗り越え…：今なお残る爪痕」という題目で、災害時の支援―受援体制の状況や今後の地震対策等について熱い議論を交わしました。

特別講義を終えて

今回、このような機会を与えて頂きました日本下水道事業団研修センター細川所長をはじめ、青木教授ならびに渡邊特任教授には改めて感謝を申し上げます。また、特別講義と一緒に講義をさせて頂きました宮城県七ヶ浜町寺澤町長、広島県廿日市市原田副市長とは、その後の会合の場でも色々なお話をさせて頂きまして、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。熊本市は現在、下水道施設の



復旧に向けて、職員一丸となつて業務に邁進しています。いつ何時に被災都市になるか分かりませんが、平常時に受援のための準備をし、発災時の備えを行うことが重要であると思えます。また、支援時においては「オール下水道」として集結し、一致団結して被災地の早期復旧を目指すことが、非常に重要となります。その為にも、事業団研修センターには、下水道事業の将来を担う技術職員の育成に一役買ってほしいと切に願ひ結びとさせて頂きます。

特別講義 「東北・熊本大震災復興状況と支援都市側の内情について」を受講して

栃木県佐野市下水道課



根岸 稔

寄稿させて頂いたいただきます。

内容ですが、宮城県七ヶ浜町寺澤町長、熊本県熊本市上下水道局岩本首席審議員より大地震を経験してからの復興について、広島県廿日市原田副市長より浸水対策について講演頂きました。

私が勤務する佐野市は平成17年に佐野市、田沼町、葛生町の1市2町が合併して誕生した栃木県南部に位置する市で、佐野らーめん、いもフライ、佐野厄除け大師、佐野プレミアムアウトレット等の資源を有しています。ゆるキャラグランプリ2013優勝にも輝いた「さのまる」がマスコットの水と緑に恵まれた人口12万人程の都市です。

今回、管渠設計Iを受講し下水道工事の基礎を学んだところですが、カリキュラム中の特別講義「東北・熊本大震災復興状況と支援都市側の内情について」を受講し感銘を受けたため

講義を受けて感じたことは、地震や大雨台風などの災害が発生したときに最前線に立つのが市町村の職員であり、市民を含め多くの人が技術職員を頼りにすることです。そして有事の際に自分が土木技術者としてどのように行動すべきか考える良い機会となりました。普段何気なく使う下水道が使えない不満、道路上にマンホールがせりあがった場合の通行の判断、避難所の開設、汚水管の復旧等すべきことが沢山あります。ハード面の整備やソフト面の支援を日頃から常に考えておかなければならないことを知りました。講

師の方々を経験談を踏まえ緊迫した状況を伝えて頂きました。特に他の自治体からの応援で来てくれる職員には多大なる感謝があること、被災者は生活が一変すること、上下水道やガスなどのライフラインの大切さ、仮設住宅での生活、人の優しさなど。大震災・津波・大雨による被災の教訓を風化させることなく継承していかなければならないと感じました。

また、自らは被災しなかつた場合、支援する自治体として何ができるか。災害に強い街づくりを考えながら、被災者の思いを受け継ぎ日々の業務に当たらねばと感じさせられました。



研修の思い出ですが、研修そのものも勉強になります。宿泊施設内の談話室のTVで野球中継をほろ酔い気分で見ながら下水道について様々な自治体の現状を語り合えるのは事業団の強みだと感じました。また、幹事をさせて頂いたいただき、研修生をまとめる大変さなども経験でき、非常に有意義な研修となりました。

最後になりますが、青木先生をはじめ、講師の皆様、研修センターの皆様、同じ研修期間を過ごした研修生の皆様に感謝を申し上げるとともに、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

退任教官挨拶

研修センターの思い出

クボタ環境サービス（株）

中村 芳男

（前研修センター教授）



1. はじめに

私こと、35年間勤務した日本下水道事業団を、平成29年3月末で退職し、JS生活の最後を研修センター教授で終わらせていただきました。研修センター勤務は最後の1年間と短い間でしたが、ありがとうございます。私が対応させていただいた研修生の皆様には、JSにおいてその後のフォローができなくなってしまう残念です。自分自身、この仕事が好きでした。各

2. 研修コースの運営

この1年間ですが、大変充実していたと思います。それまで研修業務に協力してきたことといえば、講師としてコマを受け持つことくらいで、研修コースを運営することは始めての経験でした。右も左も分からなかった私を、所長を始め講師陣の皆様、事務担当の皆様を支えてい

ただき、速やかにコース運営を立上げることができました。そして最後まで無事に？終えることができました。ありがとうございます。

3. 研修について

私の受け持ったコースは、どちらかというと初級者から中級者向けのコースで、対象者は初めて下水道関係の部署に配置された方、他分野から転籍された方などが多く来られたコースでした。研修センターにはゲートやポンプのカットモデル等実物の展示があり、触れてみることでできます。研修生の皆さんが興味を示すのは、実際に使われている物で、その構造がどうなっているのだとか、どのような部品からできているのだとか、五感で感じとれるところに興味を持ち、かつ理解が深まると感じました。このような研修教材の充実をもう少しやりたかったなと思います。

また、管きよの維持管理コースでは、TVカメラ車の操作体験や管きよ内調査機器、清掃機器などは、実習で先端を行くものを用意することができ、研修生にとっても貴重な経験となり、喜ぶ顔が見られたことが嬉しいです。

講義には、いろいろな講師をお招きして授業をしていただきました。熱い思いを語っていたり、パワーポイント資料による写真や図解などで分かりやすく説明していただき、研修生にとって分かりやすかったと感じております。研修生も様々な職場環境の下來られているので、実務で携わっている方には易し過ぎて飽き飽きする方も居ましたが、そこは、初心者のサポートに回ってもらうなど、相互補完をしていただくこともありました。また、専門性の深い講師陣には研修生が分かりやすく馴染みやすいよう工夫していただくなど、大変お世話になりました。ありがとうございます。

4. おわりに

公共団体においては、団塊世代の大量退職や運営改善による職員数削減などで下水道に詳しい人材が減少し、さらには人口減少問題への対応から、益々の効率化が求められています。このような中、先人が今まで培ってきた計画、設計や施工に関する下水道技術をしっかり伝えること、最新の下水道事業への取り組みなど、JS研修センターではきめ細かな対応を図ってきたところではあります。公共団体の皆様には、今後もJS研修センターとお付き合いいただき、ウインウインの関係を継続していただくことを期待しております。研修センターの益々の発展を祈念いたします。



研修センターOBとしての 思い出と近況報告

埼玉県越谷県土整備事務所

道路環境担当課長

佐々木 健太郎

(前研修センター准教授)



皆さま、ご無沙汰しております。埼玉県越谷県土整備事務所の佐々木です。お世話になりました研修センターより依頼がありましたので、研修センターでの思い出や近況報告をさせていただきます。

私が研修センターに赴任したのは、平成27年度から平成28年度の2年間です。この間、15コースを担当させていただき、全国の様々な研修生と出会うことができました。在籍した2年間、他では味わえない本当にたくさんの貴重な経験をさせていただ

きました。

私は、主に実施設計コースの「管きよ設計」を担当しました。今まで経験のない業務であり、各所属から期待を込めて送り出されている研修生が必要な知識を取得し、怪我や病気などのトラブルなく、そして何より「楽しかった」と感じてもらえる研修にできるかとても不安でした。また、コース担当の他にも一部教科で教壇に立つ場面もありました。高い研修受講料を払い、戸田に来てくれている研修生に満足してもらえないような講義にしなければならぬと思

い、大きなプレッシャーを感じつつ、必死に準備をしていました。そんな時に参考になったのが、渡邊良彦先生や長澤不二夫先生、そして外部講師の方々からの助言でした。まずは、自分

が研修生の立場であったらという視点で、可能な限り、講義やオリエンテーション、時にコースを通じて見学させていただき、自分なりのコース運営、授業の進め方を構築することができたと思います。

また、研修センターでの生活といえば、大部屋での共同生活です。研修生にしてみれば非常の空間で生活することになりますので、体調の変化には細心の注意を払うようにしていました。一番長い期間が17日間というコースもある中、風邪をひく人は何人かいましたが、大きな怪我や病気もなく、各コースで修了式を迎えることができました。

コース運営に当たっては研修生皆さんの協力と、自身の研修があるにも関わらず、研修生と私の橋渡し役を担ってくれた幹事の方々の尽力があつたから、無事にコースを修了させることができましたと思っています。私は幹事を含めた研修生に、本当に恵まれたと思います。研修生から「あつという間だった」、「また他のコースで参加したい」、「来てよかった」等の声が聞けると、私自身大変嬉しかったです。

そして何より、この研修業務を通して研修生はもちろん、自治体・法人・民間の外部講師の方々と色々な話をする事で視野が広がり、研修センターへ出向しなければ得られなかった人脈を得ることができたことは、私にとって本当に貴重で大事な財産となりました。

さて、近況報告を2つさせていただきます。まず、現在の職場については、埼玉県に戻り、越谷市にある「越谷県土整備事務所」という所で道路補修や橋梁の老朽化対策、交差点改良等の業務に携わっております。下水道事業からは離れてしまいましたが、道路の占用調整等で管轄内の自治体の研修生と顔を合わせることもあります。

もう1つは、渡邊先生から依頼があり、コース担当時に受け持っていた8月の実施設計コース「管きよ設計I」の2教科で、外部講師としてデビューしました。久しぶりに教壇に立ちとても緊張

しましたが、精いっぱいやらせていただきました。講義当日は、3コース開講しており、当時の私の研修生をはじめ何人かが再び受講されており、再会できたことがとても嬉しかったです。最後になりますが、受講するか悩んでいる方は、ぜひ戸田の研修センターに来て、貴重な仲間と思いを作って下さい。

日本下水道事業団の研修センターの益々の発展と研修生皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。



新任教官紹介

研修企画課長兼教授



青木 実

当しています。所長は前歴を出して設計のベテランと紹介しますが、管きよの設計は場内配管位(あとトンネルが2本)しか経験が無いので誇大広告もいところでは。

皆様、はじめまして。
平成29年4月1日付けで、東日本設計センターから研修センターに参りました青木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は、戸田の勤務は2回目ですが、研修部門は初めてです。(前回は旧研修部の隣の技術開発部に6年間おりました。)見た目のとおり年齢です。この年で二足の草鞋を履かせられるとは夢にも思いませんでした。JISは本当に人使いが荒いです。

現在は実施設計コースの管きよを中心に限られた専攻を担当

授業内容を時間外の自習でこなす事も多くあるようです。また、同じ専攻の中での受講生の経験年数も幅広くなり、講師の方にも講義内容でご苦労を掛けているようです。

また、講義後の交流によるネットワーク作りに熱心な方であり原則禁酒の寮生活ながら、盛り上がりつつある時間も多ようです。泊り込みによる研修のメリットのひとつと考えております。

研修センター 専任講師



石川 眞

す。何年後も同窓会で交流している諸先輩をみているとJIS研修の醍醐味はこれかなと思えます。

今年度研修を担当させていただいた受講生の方をうまくサポートできたかはわかりませんが、少しでも過ごし易い生活環境づくりと技術習得のための一助となるように頑張りますのでよろしくお願いたします。

皆様、はじめまして。
平成29年4月1日付けで研修センターに参りました石川眞と申します。どうぞよろしくお願いたします。

平成18年度から平成21年度まで、研修センターに在職して

ましたので、懐かしく思います。日本下水道新技術機構に向中、自治体を訪問した際、私の研修に参加していただいた研修生と再会することができました。研修生のみなさんが活躍なさっている姿見て、大変うれしく思いました。また、非常に懐かしく、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございます。

現在、計画設計コースを担当しています。10年間で、社会情勢は大きく変化しました。下水道事業を持続的に運営してく

めには、経営管理(カネ)、施設管理(モノ)、執行管理(人)の課題があります。また、その間、東日本大震災、経験したことのない激烈なスーパー台風や集中豪雨などの自然災害も発生しています。

今後の下水道は「持続可能な下水道事業」さらに「継続的に発展できる下水道事業」を真剣に考える時期にきています。そのために、政策立案・計画部門の方は、下水道に関する技術の知識だけでなく、ICT・IoTなどの情報分野、雨量レーダー、流量計、生化学など下水道分野以外の最新技術を理解し、新たな下水道分野の適用への検討を行う必要があります。

技術分野だけでなく、公会計を導入に伴い作成された財務諸表を理解し、下水道事業の財政状況、経営状況を把握し、将来の下水道事業計画に反映できることが重要です。また、下水道職員の減少に伴い民間連携PFI・PPPを推進する必要があると見られます。適正な契約を行うために連携を行う民間企業の財務状況、PFI・PPPの将来の経営状況の把握、瑕疵のない契約を行うための法律知識、さらに民間連携を市民・議会に對する

確に説明責任を果たせることのできるプレゼンテーション能力も問われています。

また、事業で発生する危機を未然に防ぐ危機予防、想定以上の危機に対応して適切なダメージコントロールを行う能力向上も必要です。

新たな下水道事業について。研修を通じて考えてみませんか。是非、皆様と前向きで有効な議論ができればと考えています。皆様の研修参加を戸田でお待ちしております。

研修センター准教授



早矢仕 高

ますが。それでも研修で知り合った地方自治体の方々とは、異動先で再会するなど縁ができたことを強く実感しています。

研修コースを担当することになったから、今でもそういつたコミュニケーションは健在なのだろうかと思ひ、研修コースの幹事さんに聞いてみたところ、やっぱり毎晩のディスカッション（＝懇親会）は欠かさないみたいでした。自治体の職員が年々減少していく中で、業務上で同じような悩みを持っている研修生同志はすぐに打ち解け合ひ、研修終了後も長く交流を続けているそうです。これも、JS研修の伝統として受け継がれているようです。

私の担当する研修コースは、「実施設計コース処理場設計Ⅰ」、「実施設計コース処理場設計Ⅱ」、「維持管理コース処理場管理Ⅰ（講義編）（講義編＋実習編）（実習編）（第1回及び第2回）」、「民間研修コースJS品質確保研修」、「コンサルタン研修技術者養成コース（機

械）」です。また、他の担当コースの中でも、いくつか講義を担当しています。

この原稿の執筆中にも、処理場設計Ⅱの講義が行われており、地方公共団体で処理施設の設計に携わっている研修生の方々と共に、研修目標の達成に向けて日々過ごしています。研修生の皆様には、JS研修を通して幅広い知識を吸収していただくとともに、同じ研修コースに参加された方々と交流を深めていただければと思っています。

今後も、各コースとも充実した講義内容とすべく努力していきたいと思ひますので、皆様のJS研修へのご参加をお待ちしております。



皆様はじめまして。
平素よりJS研修をご利用いただきありがとうございます。
平成29年4月1日付けで研修センターに参りました、早矢仕（はやし）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は平成9年度入社のJSオペレーター職員で、専門職種は機械です。これまでは設計課や現場事務所での勤務を行ってきました。研修センターでの勤務は今回が初めてです。
私の中の研修センターのイメージとしては、何度か参加させていただいた研修コースでの思い出が真っ先に浮かびます。とは言っても、昼間に講義で勉強した内容よりも、夜の部ひたすら飲んでいた事だったりし



研修センター職員紹介



川島 正

【教授】

- 専門：土木
- 担当コース：計画設計

役に立つ密度の濃い研修を目指します。



細川 顕仁

【所長】

- 専門：土木

お蔭様で昨年7月に研修受講生が延べ7万人を突破しました。時には厳しく、時には楽しい研修を受講して、この全国に張り巡らされたJS研修ネットワークに参加してみませんか。



本多 大

【教授兼専門幹】

- 専門：土木
- 担当コース：計画設計

下水道生活も35年を経過しましたが、日々勉強の毎日です。下水道事業はたくさんの課題を抱えています。一緒に学び、解決に向けて歩き出しましょう。



高村 和典

【次長】

- 専門：土木

ニーズを把握し、新しい情報を的確にお伝えできるよう研修の企画、立案に努めます。



加藤 壮一

【教授】

- 専門：事務
- 担当コース：経営

下水道経営の諸課題は一層深化しています。是非当研修に積極的にご参加いただき、適正な事務執行をしていただけ願っております。



青木 実

【研修企画課長兼教授】

- 専門：土木
- 担当コース：実施設計

皆様と一緒に良い研修成果が出るようにしますので、宜しくお願いいたします。





長澤 不二夫

【専任講師】

- 専門：土木
- 担当コース：実施設計

皆さんと共に下水道事業を通じて元気な日本を築きませんか。「克己復礼」の言葉を知り、改めて日本人に生まれたことに感謝し、これからの人生は「礼」に則して楽しみたいと願っています。



渡邊 良彦

【特任教授】

- 専門：土木
- 担当コース：実施設計

熊本・大分地方の震災に際し、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。そして、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。いつも「一期一会」を大切に、皆様をお迎えしております。また、平成28年1月28日から平成30年3月31日まで、奈良県橿原市の観光大使として、広報活動の一端をご協力させていただいております。



石川 眞

【専任講師】

- 専門：土木
- 担当コース：計画設計

持続可能な下水道事業を研修生の皆様と考えたいと思います。



早矢仕 高

【准教授】

- 専門：土木
- 担当コース：計画設計
維持管理

当研修が、下水道を支える皆様の一助となれるよう、頑張っていきたいと思っています。



堀内 建二

【専任講師】

- 専門：設備（機械）
- 担当コース：維持管理

機械設備の保全の勉強を一緒にしましょう！



栗田 毅

【専任講師】

- 専門：水質
- 担当コース：維持管理

いっしょに、べんきょうませう。



5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15 ■ 18									
	25 ■ 29								
					22 ■ 26				
				27 ■					
		19 ■ 20							
			28 ■ 31				11 ■ 14		
31 ■ 1									
								30 ■ 1	
		1 ■ 3							
	12 ■ 13								
					1 ■ 4				
21 ■ 25									
				10 ■ 14					
	3 ■ 6								
						6 ■ 9			
							10 ■ 14		
							12 ■ 15		
									4 ■ 8
23 ■ 8									
		30 ■ 10		3 ■ 14			3 ■ 14		28 ■ 8
	27 ■ 13			29 ■ 14	10 ■ 26		28 ■ 14	16 ■ 1	
		18 ■ 27				7 ■ 16			
28 ■ 1			20 ■ 24			12 ■ 16			
				1 ■ 5					
		31 ■ 3							
4 ■ 8									
					15 ■ 26				
							26 ■ 30		
	25 ■ 29								
								16 ■ 18	
	3 ■ 13								
							26 ■ 7		
			27 ■ 31					28 ■ 1	
				官のみ 25 ■ 28				官・民 15 ■ 18	
				官のみ 25 ■ 5				官・民 15 ■ 25	
				官のみ 1 ■ 5				官・民 21 ■ 25	
			官のみ 22 ■ 31			官・民 28 ■ 7			
									13 ■ 15
					10 ■ 19				
						5 ■ 9			
			5 ■ 14						
21 ■ 22									
23 ■ 25									
	28 ■ 29								
				20 ■ 21					
				25 ■ 28					
							18 ■ 19		

平成30年度 研修実施計画

コース	専攻名	官民区分	クラス	研修期間	研修回数	受講料(円)
計画設計	■下水道事業入門	官	初	4	1	128,200
	下水道事業の計画の策定・見直し	官	中	5	1	139,700
	総合的な雨水対策	官	中	5	1	139,700
	浸水シミュレーション演習	官	特	1	1	29,800
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(入門編)	官	初	2	1	59,500
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	官	特	4	2	128,200
	●アセットマネジメント・ストックマネジメント(管理職編)	官	特	2	1	59,500
	●汚水処理施設の広域化	官	特	3	1	116,800
	■下水道事業における危機管理と災害対策	官	特	3	1	116,800
	●下水道事業管理者研修	官	特	2	1	29,800
経営	下水道の経営	官	中	4	1	128,200
	企業会計ー移行の準備と手続きー	官	中	5	1	139,700
	●企業会計ー資産調査の履行確認・会計システムの導入ー	官	中	5	1	139,700
	消費税	官	中	4	1	128,200
	下水道使用料	官	中	4	1	128,200
	受益者負担金	官	中	5	1	139,700
	滞納対策	官	特	4	1	128,200
	接続・水洗化促進と情報公開	官	中	5	1	139,700
実施設計	●管きよ基礎	官	初	17	1	222,000
	管きよ設計I	官	初	12	4	194,700
	管きよ設計II	官	中(指)	17	5	222,000
	推進工法	官	中	10	2	174,000
	管更生の設計と施工管理	官	中	5	3	139,700
	設計照査(会計検査)	官	中	5	1	139,700
	■排水設備工事の実務	官	特	4	1	128,200
	処理場設計I	官	初	5	1	139,700
	処理場設計II	官	中(指)	12	1	194,700
	処理場設備の設計(機械設備)	官	中	5	1	139,700
	処理場設備の設計(電気設備)	官	中	5	1	139,700
	ストックマネジメント計画に基づく設備の改築更新	官	中	3	1	116,800
工事監督管理	工事管理	官	中(指)	11	1	185,500
維持管理	■管きよの維持管理	官	初	12	1	185,500
	■管きよの点検・調査	官	特	5	2	139,700
	処理場管理I(講義編)	一部※	初	4	2	128,200
	処理場管理I(講義編+実習編)			11	2	185,500
	処理場管理I(実習編)			5	2	57,300
	処理場管理II	一部※	中(指)	10	2	174,000
	電気設備の保守管理	官	中	3	1	116,800
	水質管理I	※	初	10	1	174,000
	水質管理II	※	中	5	1	139,700
	事業場排水対策	官	中	10	1	174,000
	水処理施設の管理指標の活かし方	※	特	2	1	59,500
	■水質管理のトラブル対応	※	特	3	1	116,800
●官民連携・国際展開	●官民連携	官	特	2	1	59,500
	●官民連携・国際展開(官民)	※	特	2	1	59,500
	効果的な包括的民間委託の導入と課題	官	中	4	1	128,200
	包括的民間委託における履行確認	官	特	2	1	59,500

●は、新設講座 ■は、リニューアル講座 ※は、官・民合同研修

J S 研修トリビア ～研修あれこれ～

第2回 「縁」にまつわるお話

前号から連載が開始されましたJ S 研修トリビア。2 回目の今回は『縁々えにし』に関するエピソードをご紹介します。

○しんし

親子がそれぞれJ S 研修を受講した方は何組もいらっしやいます。最近、研修受講生O B の方のお子様もJ S に新規採用職員として入社してきました。ともに九州地方の都市出身で、K 市の方のご子息とT 市の方のご令嬢。お父様が研修での良き思い出からJ S への就職を薦めた：かどうか定かではありませんが、少なくともJ S がどんな組織であるかの説明はされたのではないのでしょうか。両名とも優秀で（と信じています）、将来が楽しみです！

そのうち親が講師で子が受講

生というのを実現したい：私の密かな野望です！

○はらから

親子同様、兄弟それぞれがJ S 研修を受講したという方も何組かありますが、前号で紹介しましたように、昨年度、兄弟が同時期に同じ研修を受けるという史上初めての出来事がありました。全く意図せず違う自治体からの申込みであったこともあって、J S 研修の生き字引W 特任教授も大興奮でした。その生き字引をして、姉妹で受講された方はまだいないのではとのことです。

最近では女性の受講生が増えておりますので、姉妹で受講ということもそう遠くない日に達成できるのではないのでしょうか。

○めおと

J S 研修受講経験がご夫婦もいらっしやるそうですが、なんと、同じ研修を受講した方同士がご結婚されるといふ非常にめでたい出来事が昨年度にありました。研修期間中に親密度が一気に増したかどうか分かりませんが、研修終了後も連絡を取り合い、研修から約1 年後に見事ゴールインしたそうです。因みにともに関東地方の異なる都県のF 市（男性）とH 市（女性）の方で、ご結婚後は奥様の方が旦那様の近くの市役所へ転職されたとのこと。女性も増加していますが、男性も若い方の割合が増加しているように感じます。近い将来、第二号カップルの誕生も期待されます！

○とも

就職する前からの友人・知人とJ S 研修で再会する、ということもあるのではないのでしょうか。実は私もその経験があります。J S に就職した年に「管きょI」を受講したのですが、その開講式の時に学生時代の後輩が受講者席に座っていて、大変驚きました。社会人1 年生で誰よりも下だったはずなのですが、後輩がいて非常に気が楽になりました（後輩は迷惑だったかも知れませんが…）。

この「とも」ですが、旧知の仲よりも研修をきっかけに新たな縁が結ばれるという方が圧倒的に多いでしょう。居住地、年齢、経歴等々関係なく強い絆が生まれる。本誌で毎号紹介される色々な同窓会を見ていると、ここでできた人と人の結びつきの強固さにもいつも感心します。

まだJ S 研修を受講したことのない方、新たな出会い、えにしを求めて是非戸田へお越し下さい！

このコーナーはネタが尽きるまで連載予定でいます。次号もお楽しみに！

（研修センター所長

細川 顕仁）



平成30年度研修アンケート集計結果について

毎年、地方公共団体・下水道公社等の皆様に研修に関する調査を実施させて頂き、研修人員の把握と皆様のご意見を研修に反映させるため研修アンケートを実施しております。

昨年9月に発送・ご回答いただきました、平成30年度研修アンケート結果についてご報告させて頂きます。

2、207団体に発送し、そのうち542団体よりご回答をいただきました。ご協力有難うございました。

1 JSの研修への参加予定の有無

昨年の希望者を上回る参加希望をご回答いただきました。有難うございます。希望の方が全て受講できるよう、企画調整・実施を努力させて頂きますのでよろしく願います。

2 実施を希望する研修について

25の団体様から、「法令解説」、「企業会

計への移行後の実務」、「危機事象対応・下水道BOP策定」など幅広いご意見をいただきました。実施予定の研修中で反映できるよう努力してまいります。

3 研修効果について

研修の効果については回答542団体のうち315団体より「役に立った」、「少し役に立った」とのご回答を頂き、「役に立たなかった」との回答はありません。

4 その他のご意見

「受講料の削減」、「受講期間の短縮」などのご意見をいただきました。研修の内容・質を確保しつつ、ニーズにあった対応をしてまいります。ご理解・ご鞭撻をお願いいたします。

研修センターの歩み

昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成10年	7・14 8・1	第11代本部長 黒沢 宥就任 参与 内田 信一郎就任
昭和48年	2・6 5・ 12・27	研修部で研修開始 プレハブ校舎完成 試験研修本館着工	平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和49年	1・16 12・1	研修会報（研修みずのわ）創刊 第2代研修部長 丸山 速夫就任	平成12年	6・30 7・3	研修修了生3万5千人達成 第14代研修部長 渡部 春樹就任
昭和50年	3・25 4・16 8・1	試験研修本館竣工 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任	平成13年	1・20 4・16	第12代本部長 中橋 芳弘就任 参与 福智 真和就任
昭和51年	3・14 8・1 11・21	第1回下水道技術検定試験実施 第3代研修部長 橋本 定雄就任 第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）	平成14年	4・1 11・1	第15代研修部長 篠田 孝就任 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
昭和52年	2・16 4・1	第3代本部長 上田 伯雄就任 第4代研修部長 武田 篤夫就任	平成15年	4・16 10・1	参与 色摩 勝司就任 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和53年	4・1 11・16	第4代本部長 遠藤 文夫就任 常任参与 安田 靖一就任	平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任	平成17年	4・1 8・1 10・21	第17代研修センター所長 成田 愛世就任 第13代本部長 安藤 明就任 研修生4万5千人達成
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任	平成19年	4・1 11・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任 事業団設立35周年を迎える
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる	平成20年	1・19 1・30	研修修了生5万人達成 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和57年	6・5 11・1	第6代研修部長 伊阪 重信就任 事業団設立10周年を迎える	平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
昭和58年	4・1 8・29 11・16	常任参与 藤井 秀夫就任 研修修了生1万人達成 第6代本部長 中村 瑞夫就任	平成22年	4・1 4・22 6・10 8・3 3・11	第14代本部長 村上 孝雄就任 研修修了生5万5千人達成 本館耐震化工事着手 研修業務検討委員会設置 東日本大震災
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。	平成23年	4・1 9・21	機構改革により技術開発研修本部長を廃止 し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任 臨時研修「地震対策」実施
昭和60年	1・1 3・27	第7代研修部長 真船 雍夫就任 新厚生棟完成	平成24年	4・17 11・1 11・22 3・29	研修修了生60,000人達成 事業団設立40周年を迎える 臨時研修「放射能対策」実施 本館耐震化工事終了
昭和61年	10・1	第7代本部長 苦米地 行三就任	平成25年	4・1 11・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる	平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
昭和63年	1・1 4・1	第8代研修部長 石川 廣就任 第8代本部長 千葉 武就任	平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑 田 正憲就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任	平成28年	4・1 7・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任 研修修了生70,000人達成
平成2年	3・31 6・11	本館改修工事竣工 第9代研修部長 亀田 泰武就任	平成29年	10・4 11・1	新寮室棟基本設計着手 事業団設立45周年を迎える
平成3年	7・16 7・26	第10代研修部長 石川 忠男就任 研修修了生2万人達成			
平成4年	4・1 4・1 11・1	第9代本部長 清野 圭造就任 第11代研修部長 星隈 保夫就任 事業団設立20周年を迎える			
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任			
平成6年	7・1 10・7	第10代本部長 小林 紘就任 研修修了生2万5千人達成			
平成7年	7・5	総合実習棟竣工			
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任			
平成9年	3・20 9・29 11・1	本館改修工事竣工 研修修了生3万人達成 事業団設立25周年を迎える			

裏表紙の写真

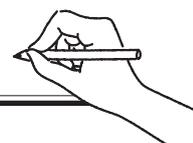
日本下水道事業団研修センターの本館棟と総合実習棟

撮影地：埼玉県戸田市

編集後記

- ★ 昭和48年2月に研修を開始して以来45年目を迎え、昨年度末までの研修生総数は71,688人となりました。これもひとえに、皆様のご支援とご指導の賜物と、深く感謝しております。
- ★ 45周年にあたり、事業団の研修業務の推進に御貢献いただいた個人として、元蓮田市下水道課長 岡本 久年様、元佐野市市民生活部長 片柳 栄様、また、団体として熊本市様が功労者表彰を受けられました。長年に渡り研修業務にご尽力いただいたことに対し、深く感謝するとともに、今後も日本の下水道事業に携わる人材育成にご協力をいただきますようお願いいたします。
- ★ JS研修みずのわは、数多くの研修OBの方に支えられて発行を続けております。ご多忙の中、研修へのエール、受講当時の思い出等多くのご寄稿をいただきありがとうございます。本号に掲載できなかった数多くの研修生の方々の声をこれからも伝えていきたいと思っております。

今後とも皆様に支持される魅力ある研修であり続けられるよう職員一丸となって努力して参ります。一層のご支援、ご活用のほどよろしく願いいたします。



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつなかりが生まれるように、との期待を託したものです。



機関誌「**研修みずのわ**」 第51号

平成30年1月発行 第51号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141

TEL 048-421-2692

FAX 048-422-3326

印刷 株式会社石井印刷